

川島地区幼保一体化施設整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

川島郷遺跡

2021年3月

高松市教育委員会



調査区全景（オルソ）



出土遺物

例　　言

- 1 本書は、香川県高松市川島東町に所在する川島郷遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、川島地区幼保一体化施設整備事業に伴うものである。
- 3 調査は、高松市教育委員会が実施した。
- 4 調査期間と面積は以下のとおりである。
 - 1次調査：平成30年7月19日（約100m²）（防火水槽設置箇所）
 - 2次調査：平成31年4月1日～令和元年6月24日（約940m²）（第1～3調査区）
- 5 現地調査は、1次調査：高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員　波多野篤
2次調査：高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員　船築紀子、
同課非常勤嘱託職員　磯崎福子が担当した。
- 6 本報告書の執筆・編集は、高松市創造都市推進局文化財課会計年度任用職員（文化財専門員）磯崎が行った。
- 7 以下の業務については、委託業務として行った。
基準点打設業務委託：株式会社 イビソク
空中写真測量業務委託：株式会社 イビソク
掘削業務委託：株式会社 増田地質工業
遺物写真撮影業務委託：西大寺フォト
出土木器の保存処理業務委託：株式会社吉田生物研究所
- 8 発掘調査で得られた資料は高松市教育委員会で保管している。

凡　　例

- 1 本書で使用した座標系は平面直角座標系第IV系（世界測地系）、標高は東京湾平均海水面を基準とした。土層注記及び遺物観察表（土器・土製品）の色調表示は、「新版 標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人 日本色彩研究会 色票監修）によった。
- 2 遺構名の表記は、原則として以下の規則により、遺構種別（S D・S K・S X・S P）と個別番号の数字の組み合わせで統一した。個別番号に関しては、原則として調査当時に付した番号を踏襲している。
- 3 遺構種別については、S D（溝）、S K（土坑）、S X（性格不明遺構）、S P（ピット）といった遺構記号とする。
- 4 出土遺物の実測図は、土器と木器は1/4、石器は1/2、遺構の縮尺については図面ごとに示している。また、写真図版における遺物の縮尺はすべて任意である。
- 5 遺物観察表の法量のうちで、（ ）は推定値、[]は残存値である。

本文目次

第I章 調査の経緯と経過.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 発掘調査の経過(調査日誌抄).....	2
第II章 地理的環境・歴史的環境.....	3
第1節 地理的環境.....	3
第2節 歴史的環境.....	3
第III章 調査の成果.....	5
第1節 調査の方法.....	5
第2節 遺構と遺物.....	5
1) 2次調査第1面の調査.....	5
2) 2次調査第2面の調査.....	29
3) 1次調査.....	35
第IV章 自然科学分析.....	39
第V章 まとめ.....	45
第1節 遺構の変遷.....	45
第2節 考察.....	45
遺物観察表.....	47

挿図目次

図1 調査位置図(S=1/2,500).....	1
図2 川島郷遺跡周辺遺跡分布図.....	4
図3 調査区配置図(S=1/1,000).....	5
図4 第1面遺構配置図(S=1/200).....	6
図5 SD02・33・35 平・断面図(S=1/60・1/150・1/80・1/40).....	8
図6 SD03・14・16・47 平・断面図(S=1/150・1/40)出土遺物実測図(S=1/4).....	9
図7 SD01 平面図(S=1/200).....	11
図8 SD01 a-a' 断面図(S=1/40).....	12
図9 SD01 b-b'・c-c' 断面図(S=1/40).....	13
図10 SD01 c-c' 断面図(S=1/40).....	14
図11 SD01 出土遺物実測図①(S=1/4・1/2).....	16
図12 SD01 出土遺物実測図②(S=1/4).....	17・18
図13 SD01 出土遺物実測図③(S=1/4).....	19
図14 SD01 出土遺物実測図④(S=1/4).....	20
図15 SD10 平・断面図(S=1/100・1/40).....	21
図16 SD10 出土遺物実測図(S=1/4・1/2).....	22
図17 SK04・13・15・18・22・23・24 平・断面図.....	22
図 (S=1/40) 出土遺物実測図(S=1/4).....	23
図18 SK25・34・41 平・断面図(S=1/40).....	24
図19 SX19・20・21・27・40 平・断面図(S=1/100・1/40)出土遺物実測図(S=1/4).....	26
図20 第1面SP 平・断面図(S=1/40).....	28
図21 第2面遺構配置図(S=1/200).....	30
図22 SD30 平・断面図(S=1/40).....	31
図23 SK31・44 平・断面図(S=1/40).....	32
図24 SX32・45 平・断面図(S=1/100・1/40).....	32
図25 第2面SP 平・断面図(S=1/40).....	33
図26 遺構外出土遺物(S=1/4・1/2).....	34
図27 ①-SD01・SP01 平・断面図(S=1/200・1/40).....	36
図28 ②-SD01・02・03・04・05・SK01・SP01・02 平・断面図(S=1/100・1/40).....	37
図29 遺構変遷図(S=1/800).....	45
図30 周辺の条里地割図(S=1/25,000).....	46

挿表目次

表1 川島郷遺跡出土木製品同定表 40

卷頭図版目次

卷頭図版1 調査区全景（オルソ）

卷頭図版2 出土遺物

第IV章 図版目次

図版1	顕微鏡写真(35)	40	図版4	顕微鏡写真(45~48)	43
図版2	顕微鏡写真(37~40)	41	図版5	顕微鏡写真(49~52)	44
図版3	顕微鏡写真(41~44)	42			

写真図版目次

写真図版 1

- 1 - 1 第1調査区第1面 全景(南から)
- 1 - 2 第2調査区第1面 全景(西から)

写真図版 2

- 2 - 1 第3調査区第1面 全景(東から)
- 2 - 2 SD01 第1調査区北壁断面(南から)

写真図版 3

- 3 - 1 SD01 第1調査区南壁断面(北西から)
- 3 - 2 SD01 東肩 第1調査区南壁断面(北西から)
- 3 - 3 SD01 東肩 第2調査区南壁断面(北から)
- 3 - 4 SD01 第3調査区南壁断面(北から)

写真図版 4

- 4 - 1 SD01 西肩 第3調査区南壁断面(北東から)
- 4 - 2 SD01 桧出土状況①(東から)
- 4 - 3 SD01 桧出土状況②(東から)
- 4 - 4 SD01 木器出土状況③(東から)
- 4 - 5 SD01 桧出土状況④(東から)
- 4 - 6 SD01 はしご出土状況(南から)

写真図版 5

- 5 - 1 SD02 a 断面(東から)
- 5 - 2 SD02 b 断面(西から)
- 5 - 3 SD33 断面(西から)
- 5 - 4 SD35 断面(北から)
- 5 - 5 SD03 a 断面(北から)
- 5 - 6 SD03 b 断面(北から)
- 5 - 7 SD03 c 断面(南から)
- 5 - 8 SD14 断面(東から)

写真図版 6

- 6 - 1 SD47 断面(東から)
- 6 - 2 SD10 a 断面(南から)
- 6 - 3 SD10 b 断面(北から)
- 6 - 4 SK04 断面(東から)
- 6 - 5 SK13 断面(南から)
- 6 - 6 SK15 断面(東から)
- 6 - 7 SK18 断面(西から)
- 6 - 8 SK22 断面(西から)

写真図版 7

- 7 - 1 SK23 断面(西から)
- 7 - 2 SK24 断面(北から)
- 7 - 3 SK25 断面(東から)

7 - 4 SK34 断面(西から)

7 - 5 SK41 断面(北から)

7 - 6 SX19 断面(東から)

7 - 7 SX20 断面(南東から)

7 - 8 SX40 断面(南から)

写真図版 8

- 8 - 1 SP05 断面(南から)
- 8 - 2 SP06 断面(南から)
- 8 - 3 SP07 断面(南から)
- 8 - 4 SP08 断面(南から)
- 8 - 5 SP09 断面(南から)
- 8 - 6 SP17 断面(南から)
- 8 - 7 SP26 断面(南から)
- 8 - 8 SP28 断面(南から)

写真図版 9

- 9 - 1 SP42 断面(南東から)
- 9 - 2 SP43 断面(東から)
- 9 - 3 SP46 断面(東から)
- 9 - 4 SD30 断面(北から)

写真図版 10

- 9 - 5 SK31 断面(北から)
- 9 - 6 SK44 断面(南から)
- 9 - 7 SX32 北壁断面(南から)
- 9 - 8 SX32 南半全景(北から)
- 10 - 1 SX45 断面(西から)
- 10 - 2 SP29 断面(南から)
- 10 - 3 SP36 断面(南から)
- 10 - 4 SP37 断面(南から)
- 10 - 5 SP38 断面(南から)
- 10 - 6 SP39 断面(南から)
- 10 - 7 SP48 断面(南から)
- 10 - 8 SP49 断面(南から)

写真図版 11

- 11 - 1 SP50 断面(南から)
- 11 - 2 ①-SD01 断面(西から)
- 11 - 3 ①-SP01 断面(北から)
- 11 - 4 ②-SD02 断面(南から)
- 11 - 5 ②-SD03 断面(北東から)
- 11 - 6 ②-SK01 断面(東から)
- 11 - 7 ②-SP01 断面(東から)

11- 8	②-SP02 断面（東から）		写真図版 16
写真図版	12		
12- 1	SD03 出土遺物（黒色土器 B 類椀）	16- 1	遺構外 出土遺物（土師器甕）
12- 2	SD16 出土遺物（土師器盤）	16- 2	遺構外 出土遺物（土師器鍋）
12- 3	SD01 出土遺物（須恵器蓋）	16- 3	遺構外 出土遺物（須恵器壺）
12- 4	SD01 出土遺物（須恵器蓋）	16- 4	遺構外 出土遺物（須恵器杯蓋）
12- 5	SD01 出土遺物（須恵器杯 A）	16- 5	遺構外 出土遺物（須恵器杯 B）
12- 6	SD01 出土遺物（須恵器杯 B）	16- 6	遺構外 出土遺物（須恵器杯 A）
12- 7	SD01 出土遺物（黒色土器椀）	16- 7	遺構外 出土遺物（須恵器杯 A）
12- 8	SD01 出土遺物（須恵器甕）	16- 8	遺構外 出土遺物（瓦質土器鉢）
12- 9	SD01 出土遺物（須恵器壺）	16- 9	遺構外 出土遺物（土師器杯）
写真図版	13		写真図版 17
13- 1	SD01 出土遺物（須恵器甕）	17- 1	遺構外 出土遺物（須恵器杯 A・B）
13- 2	SD01 出土遺物（須恵器杯身）	17- 2	遺構外 出土遺物（弥生土器甕）
13- 3	SD01 出土遺物（須恵器杯）	17- 3	遺構外 出土遺物（須恵器壺）
13- 4	SD01 出土遺物（土師器杯）	17- 4	石器
13- 5	SD01 出土遺物（土師器甕）	17- 5	自然物 骨
13- 6	SD01 出土遺物（土師器甕）	17- 6	木器 杭
13- 7	SD01 出土遺物（弥生土器）	17- 7	木器 はしご
13- 8	SD01 出土遺物（土師器甕）	写真図版	18
写真図版	14		
14- 1	SD01 出土遺物（土師器鍋）	18- 1	木器 はしご
14- 2	SD01 出土遺物（土師器鍋）	18- 2	木器 杭
14- 3	SD01 出土遺物（土師器高杯）	18- 3	木器 杭？
14- 4	SD01 出土遺物（土師器高杯）	18- 4	木器 杭
14- 5	SD01 出土遺物（土師器高杯）	写真図版	19
14- 6	SD01 出土遺物（土師器鉢）	19- 1	木器 杭
14- 7	SD01 出土遺物（須恵器杯 A）	19- 2	木器 杭
14- 8	SD01 出土遺物（須恵器杯）	19- 3	木器（板状）
14- 9	SD01 出土遺物（土師器高杯）	19- 4	木器（棒状）
写真図版	15		
15- 1	SD01 出土遺物（弥生土器甕）	19- 5	木器 杭
15- 2	SD01 出土遺物（土師器皿 or 杯）	19- 6	木器 杭
15- 3	SD10 出土遺物（弥生土器甕）	写真図版	20
15- 4	SD10 出土遺物（弥生土器甕）	20- 1	木器 杭
15- 5	SK18 出土遺物（須恵器 漆付着）	20- 2	木器 杭
15- 6	SK22 出土遺物（須恵器甕）	20- 3	木器 杭
15- 7	SX20 出土遺物（須恵器甕）	20- 4	木器 杭
15- 8	SX21 出土遺物（須恵器杯 A）	20- 5	木器 杭

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

高松市こども園運営課により、高松市川島東町字郷 253 番 4においてこども園川島地区整備事業(現、川島地区幼保一体化施設整備事業)が計画され、平成 28 年度に事業課から高松市教育委員会(以下、市教委)に埋蔵文化財包蔵地の有無の照会があった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」の隣接地にあることから、試掘調査実施の協議を行い、事業課の協力を得て、試掘調査を平成 28 年 7 月 16 日に実施した。

試掘調査の結果、当該地に遺構及び遺物が確認できたため、周知の埋蔵文化財包蔵地「川島郷遺跡」として新規で登録された。市教委は事業課に対して、当該地において保護層が確保できない掘削工事を行う場合は、事前に埋蔵文化財に対する保護措置が必要である旨を伝えた。

川島地区幼保一体化施設整備事業の実施にあたっては、整備内容が多岐にわたっていたことから、それぞれの工事にあわせて、文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく発掘通知を香川県教育委員会へ提出した。

まず、隣接する高松市川島東町字郷 238 番 1において、高松市こども園総務課により川島地区幼保一体化施設整備事業に関し防火水槽等設置工事が計

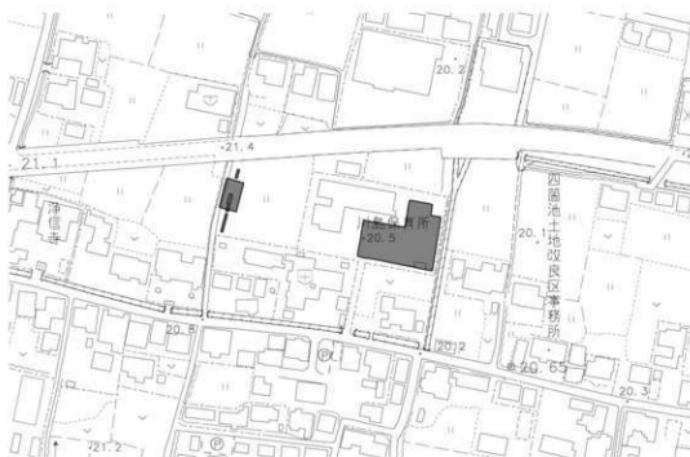
画され、平成 29 年 9 月 4 日に事業課から市教委に埋蔵文化財包蔵地の有無の照会があった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「川島郷遺跡」の西側にあたることから、試掘調査実施の協議を行い、事業課の協力を得て、試掘調査を平成 29 年 12 月 7 日に実施した。

試掘調査の結果、トレンチ 3 つうち 2 つで遺構及び遺物が確認できたため、「川島郷遺跡」に追加登録された。

その後、防火水槽設置工事については、高松市川島東町字郷 238 番 5 ほかに、当初予定していた範囲から東西に掘削範囲が拡大したことから、試掘調査に基づき、平成 30 年 4 月 10 日付け文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく発掘通知に対し、4 月 24 日付けで発掘調査の行政指導を受け、平成 30 年 7 月 19 日に発掘調査を実施し、併せて包蔵地外となる高松市道の工事立会を 7 月 24 日に行った。

造成及び擁壁工事については、平成 29 年 9 月 4 日付け文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく発掘通知に対し、9 月 11 日付けで工事立会の行政指導を受け、平成 30 年 8 月 1 日から 11 月 8 日までに 10 回行った。遺構・遺物は確認されず、河川堆積起源の不安定な地盤を観察できた。

給水管撤去・埋設、溜池設置工事については、



文化財保護法第94条第1項に基づく平成31年1月8日付け発掘通知に対し、1月21日付けで工事立会の行政指導を受け、平成31年2月8日と2月13日に行った。搅乱が多く、遺構・遺物は確認されなかった。

建物建設工事については、文化財保護法第94条第1項に基づく平成31年3月1日付け発掘通知に対し、香川県教育委員会より3月4日付けで発掘調査を行う旨の行政指導を受け、事業課の協力を得て、発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘調査の経過（調査日誌抄）

調査日誌抄（平成30年7月19日・平成31年4月1日～令和元年6月24日）

平成30年

7月19日（木） 防火水槽設置箇所を発掘調査。溝・土坑などの遺構を検出。記録作成。

平成31年

4月1日（月）～	第1調査区 重機搬入。重機掘削開始。	5月17日（金）	第2調査区 第1面全景撮影。空掘。
4月3日（水）～	第1調査区 重機掘削。搅乱掘削。第1面遺構検出。	5月18日（土）	第2調査区 第2面重機掘削。遺構検出。
4月5日（金）～	第1調査区 重機掘削。搅乱掘削。第1面遺構検出。遺構配置図作成開始。	5月20日（月）	第2調査区 第2面遺構検出。掘削。遺構配置図作成。平・断面図作成。
4月8日（月）～	第1調査区 第1面遺構検出、掘削。遺構配置図作成。平・断面図作成。	5月21日（火）	第2調査区 埋め戻し。第3調査区 重機掘削。
4月13日（土）～	第1調査区 第1面遺構掘削。断面図作成。	5月22日（水）	第3調査区 重機掘削。搅乱掘削。第1面遺構検出。
4月17日（水）～	第1調査区 第1面遺構掘削。断面図作成。清掃。	5月23日（木）	第3調査区 重機掘削。搅乱掘削。第1面遺構検出、掘削。遺構配置図作成。
4月19日（金）	第1調査区 断面図作成。清掃。第1面全景撮影。空掘。SD01埋め戻し。	5月24日（金）	第3調査区 第1面遺構検出、掘削。遺構配置図作成。平面図作成。
4月20日（土）	第1調査区 第1面掘削。SD01埋め戻し。	5月25日（土）～	第3調査区 第1面遺構掘削。
4月22日（月）	第1調査区 第1面掘削。第2面遺構検出。遺構配置図作成。	5月30日（木）～	第3調査区 第1面遺構掘削。断面図作成。
4月23日（火）～	第1調査区 第1面掘削。第2面遺構検出、掘削。遺構配置図作成。平・断面図作成。	6月14日（金）	第3調査区 断面図作成。
4月25日（木）	第1調査区 第2面遺構掘削。平面図作成。清掃。全景撮影。空掘。埋め戻し。	6月17日（月）	第3調査区 水抜き。復旧作業。清掃。断面図作成。
令和元年		6月18日（火）	第3調査区 第1面遺構掘削。清掃。平・断面図作成。
5月8日（水）	第2調査区設定。重機掘削開始。	6月19日（水）	第3調査区 清掃。第1面全景撮影。空掘。
5月9日（木）	第2調査区 重機掘削。搅乱掘削。遺構配置図作成開始。	6月20日（木）	第3調査区 SD01埋め戻し。第2面重機掘削。
5月10日（金）	第2調査区 搅乱掘削。第1面遺構検出、掘削。遺構配置図作成。平・断面図作成。	6月21日（金）	第3調査区 第2面遺構検出、掘削。遺構配置図作成。平・断面図作成。
5月13日（月）～	第2調査区 第1面遺構検出、掘削。遺構配置図作成。平・断面図作成。	6月24日（月）	第3調査区 第2面平面図作成。道具撤収。調査終了。
5月16日（木）	第2調査区 断面図作成。清掃。		

発掘調査は、遺構面まで掘削が及ぶ建物建設箇所（約940m²）、防火水槽設置箇所（約100m²）について実施した。

防火水槽設置工事が建物本体工事に先行したため、工事予定地を1次調査として、平成30年7月19日の実働1日で発掘調査を実施した。

2次調査として実施した建物の建設箇所は平成31年3月26日に調査区を設定し、4月1日に重機搬入、6月24日に調査道具の撤収を終え、現地調査をすべて完了した。調査期間は実働で53日である。

第Ⅱ章 地理的環境・歴史的環境

第1節 地理的環境

高松市は香川県のほぼ中央東寄りに位置する県都で、大部分を低い山塊に囲まれた高松平野が占める。高松平野は、完新世に入ってから形成されたものである。讃岐山脈から流下し、瀬戸内海へと注ぐ香川川をはじめ、本津川、春日川、新川などによって搬出された堆積物により緩やかな傾斜の扇状地を形成している。

本遺跡は高松平野の南東端に位置し、春日川の東岸に所在する。春日川はかつて暴れ川で各所に氾濫原や湛水池を残している。

第2節 歴史的環境

周辺部に位置する最古の遺跡として、縄文時代草創期の有舌尖頭器が出土した十川東平田遺跡がある。川島本町遺跡と川島本町山田遺跡で縄文時代後期の土器が出土している。林・坊城遺跡で縄文時代晩期の木製農具が出土しており、安定した平野部では開墾・農耕の初現が見られる。

弥生時代前期になると北野遺跡で水田跡が検出されている。光寺寺山遺跡では、トレンチ最下層から弥生時代前期末～中期初の土器がまとまって出土していることから環濠集落跡と考えられる。中期になると遺跡数は希薄になるが、後期になると飛躍的に増加して空港跡地遺跡、上林遺跡、林宗高遺跡などの集落が古墳時代初頭まで続く。川島本町遺跡の集落関連遺構やこの時期の土器を多く検出した宗高坊城遺跡などがあげられる。

古墳時代になると石清尾山山塊では多くの積石塚古墳が造営される。前期に前方後円墳が築造され、100年以上の絶続を経た後、横穴式石室を持つ円墳が盛行する。川島地区周辺では中期に前方後円墳の三谷石舟古墳、円墳の高野丸山古墳が築造され、後期には石舟池古墳群など丘陵の裾部を中心に多く築かれている。平野部では希薄になっていた集落が、中期後半以降から出現する。空港跡地遺跡には竪穴建物跡が検出され、六条・上所遺跡では竪穴建物跡から韓式系土器が出土、三谷三郎池西岸には初期須恵器の窯跡が検出されている。

古代では、平野部の各遺跡で条里遺構が認められるようになる。露尾遺跡、西下遺跡で条里地割に合致する掘立柱建物跡等が検出されている。古代寺院では押師庵寺、高野庵寺などが点在していた。古代官道の南海道の推定線が本遺跡のすぐ南にあり、川島中津遺跡と三谷中原遺跡において南海道と推定して矛盾がない遺構が検出されている。

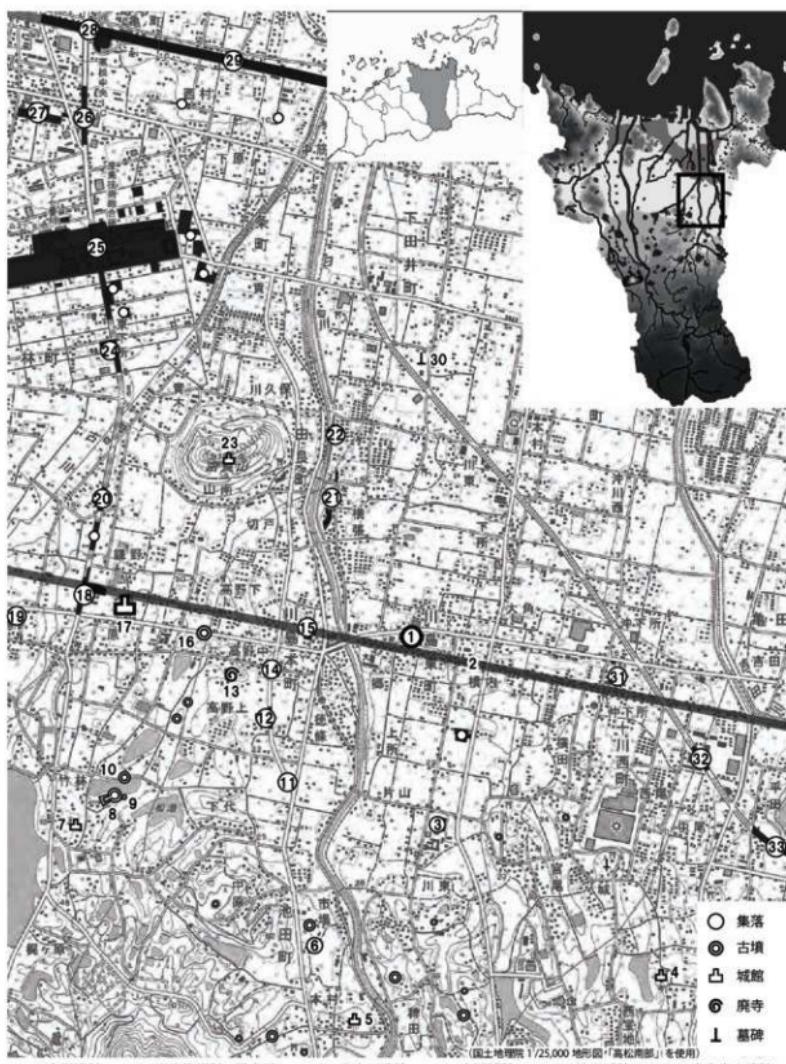
中世では、寄進地系荘園の山田郡坂下莊が『高野山文書』にするとおり、条里遺構がさらに増える。由良南原遺跡、横内東遺跡、大瀧遺跡、北山下遺跡で条里地割に合致する集落が検出されている。平安末期に土着した植田氏が十河・神内・三谷・由良氏などに分かれて山田郡に勢力を誇っており、多くの城館が所在していたことが『全讃史』や『讃州府志』などに記述が見られる。三谷城跡、鎌野城跡、十河城跡、池田城跡、由良山城跡などは戦国期の状況をうかがえる。天正10年(1582)に長宗我部元親の侵攻があった際は本遺跡の近くを通った可能性が高い。

近世では、生駒・松平家により春日川上流部の四箇池(神内池・松尾池・城池・公園池)など多くの溜池が築造され治水事業が進んだが、相次ぐ干ばつ等の災害と藩財政難で農民へのしめつけが厳しくなる。寛延2年(1749)に坂元村(川島東町を含む一帯)に集合して城下に押し掛ける袖乞闘争と呼ばれる一揆が起こった。東西に金毘羅道が貫き、春日川に沿って北上すれば城下町近郊までゆける交通の要衝であったことが集合場所になった理由の一つであろう。

【参考文献】

- 高松市教育委員会 1992・1996『讃岐国府弘福寺領の調査Ⅰ・Ⅱ』
- 香川県教育委員会 2019『県道中德三谷高松線建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告 第2冊 三谷中原遺跡』
- 高松市教育委員会 2015『高松市立山田中学校校舎改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 北山下遺跡』
- 川島校区地域おこし事業推進委員会 1995『川島郷上誌』

川島郷遺跡



- 1 川島郷遺跡 2 旧南海道路(推定線) 3 北山下遺跡 4 十河城跡 5 池田城跡 6 光寺山山遺跡
 7 三谷城跡 8 三谷石舟古墳 9 石舟池1号石棺 10 石舟池古墳群 11 川島本町南遺跡 12 川島本町遺跡
 13 高野廟寺 14 川島本町山田遺跡 15 川島中津遺跡 16 高野丸山古墳 17 鎌野城跡 18 三谷中原遺跡
 19 横内東遺跡 20 北野遺跡 21 由良原遺跡 22 大瀬遺跡 23 由良山城跡 24 上林遺跡
 25 空港跡地遺跡 26 宗高坊城遺跡 27 林宗高遺跡 28 林・坊城遺跡 29 六条・上所遺跡
 30 高松頼重墓所 31 西下遺跡 32 露尾遺跡 33 十川東平田遺跡

図2 川島郷遺跡周辺遺跡分布図

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 調査の方法

1次調査は、試掘調査においてトレーンチを掘削した順番で1～3トレーンチと番号を与え、防火水槽設置箇所と合わせた。遺構番号は試掘調査における遺構を①～、本調査における遺構を②-と冠して、遺構の性格ごとに遺構の略号を冠して1から番号を与えた。

2次調査の調査区は調査を開始した順番で、第1～3調査区と番号を与えた。遺構番号は遺構の性格に関係なく、検出した順番に1から番号を与えた。遺構の種類は、現地での調査所見をもとに性格を判断し、番号の前に遺構の略号を冠した。

遺物の取上げは、遺構単位で、かつ出土層位が明らかな場合は、層位も記載して取り上げた。

図化作業の際に使用する基準点と水準点は、株式会社イビソクに委託して設置し、世界測地系第IV系・4級水準点を用いた。

断面図と切り合い関係のある遺構平面図、遺物出土状況図は手測りで記録を作成し、その他の平面図については空中写真測量を実施した。

第2節 遺構と遺物

1) 2次調査第1面の調査

第1面は、盛土と旧耕作土及びその床土を除去

したのちに確認した遺構面である。溝と大型水路、土坑、性格不明遺構、ピットを検出した。

SD02（図5）

調査区北東部で検出した東西に直行する溝状の遺構である。搅乱に切られるため、全体の形状は不明である。主軸方位N-81°-W、検出面の標高は19.66～19.70 mである。長さ約11.41m以上を検出し、幅は約0.59 m、深さは約0.04～0.08 mを測る。断面形状は西側は浅い皿状で、東側は2条である。溝の条数変化部分が調査区の境界と重なり、十分な検証はできていない。

埋土は、a-a'断面は単層で暗褐色細礫混じりシルト～粘土である。b-b'断面は2層に分層でき、南側がやや暗い灰黄褐色中粒砂混じり微細砂、北側がやや明るい灰黄褐色中粒砂混じり微細砂である。

遺物は出土していない。埋土の状況と遺構の切り合い関係から、中世以降と考えられる。

SD33（図5）

調査区南部で検出した東西に直行する溝状の遺構である。搅乱に切られるため、全体の形状は不明である。主軸方位N-79°-W、検出面の標高は19.71 mである。長さ約25.26 m以上、幅約0.83 m、深

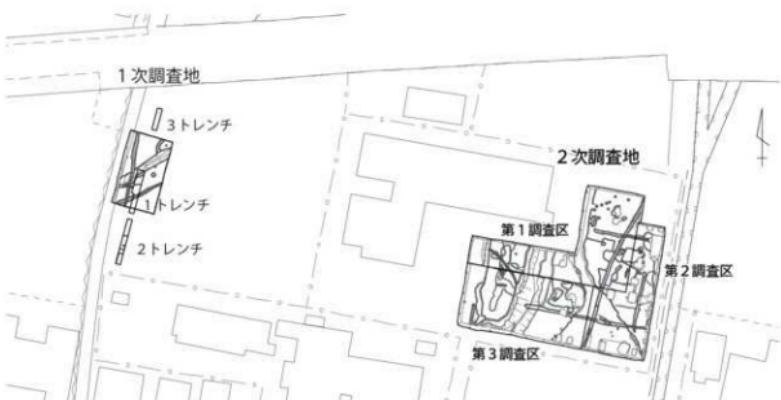


図3 調査区配置図 (S= 1/1,000)

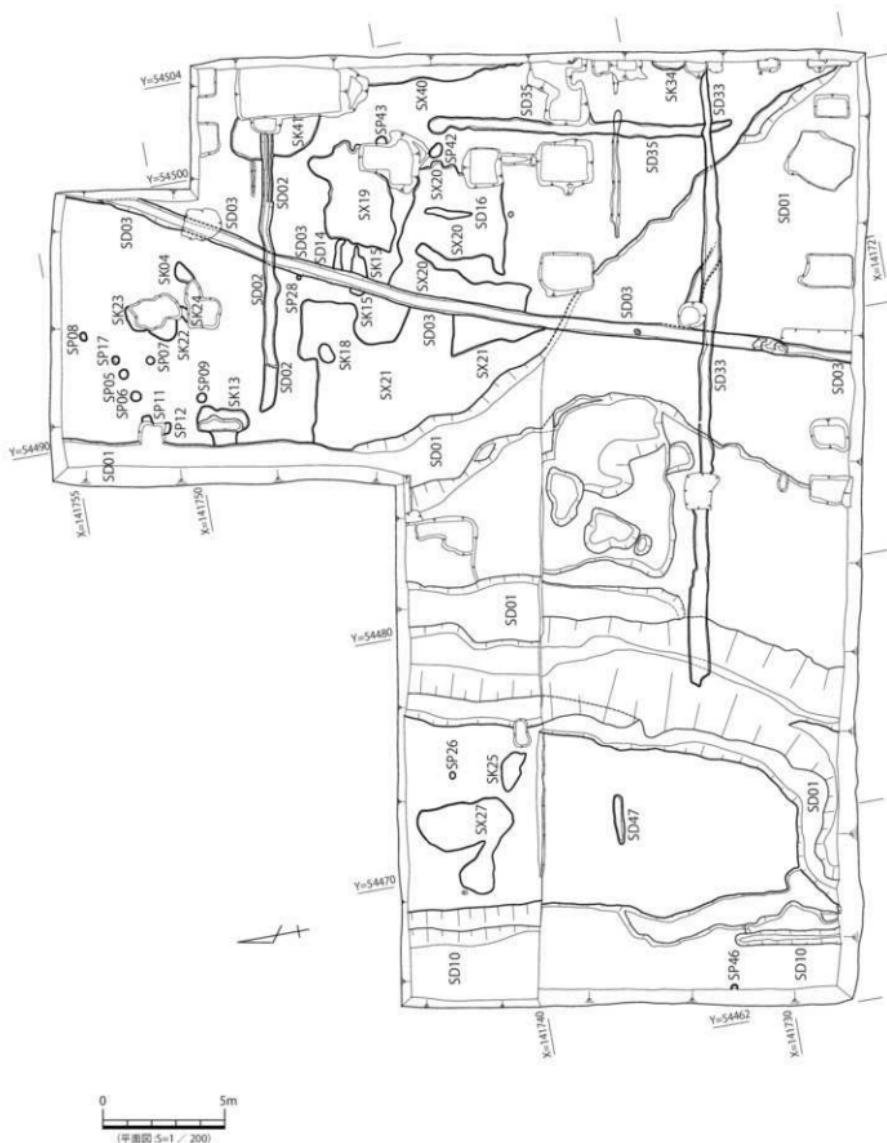


図4 第1面遺構配置図 (S= 1/200)

さ約 0.11 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、暗灰黄褐色粗砂～中粒砂混じり粘質シルトである。

遺物は出土できなかったが、土師器片が出土した。出土遺物と遺構の切り合い関係から、中世以降と考えられる。

SD35（図 5）

調査区東部で検出した南北に直行する溝状の遺構である。SD33 と攪乱に切られる。主軸方位 N-11.5°-E、検出面の標高は 19.70 m である。長さ約 12.42 m、幅約 0.71 m、深さ約 0.04 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、暗褐小礫～粗砂混じり細砂～シルトである。

遺物は出土していない。埋土の状況と遺構の切り合い関係から、中世以降と考えられる。

SD03（図 6）

調査区東部で検出した南北に延びやや東に屈折する溝状の遺構である。攪乱と SD02・SD33 に切られ、調査区外に延びるため、全体の形状は不明である。主軸方位 N-22.5°-E、検出面の標高は 19.73 ~ 19.67 ~ 19.73 m である。長さ約 32.88 m 以上を検出し、幅は約 0.70 m、深さは約 0.27 ~ 0.19 ~ 0.42 m を測る。断面形状は不整形である。

a-a' 断面で観察した埋土は 3 層に分層でき、暗灰黄褐色粗砂混じりシルト～粘土、褐極粗砂混じりシルト～粘土、灰黄褐色粗砂である。

b-b' 断面で観察した埋土は 3 層に分層でき、にぶい黄褐色粗砂混じり極粗砂、暗褐中粒砂～極粗砂、黒褐細礫混じり極粗砂である。

c-c' 断面で観察した埋土は 7 層に分層でき、オリーブ褐中粒砂混じりシルト～粘土、にぶい黄褐色粗砂混じり極粗砂、黒褐細礫混じり極粗砂、灰黄褐色シルト混じり極粗砂～粗砂（鉄分多量沈着）、黒シルト～粘土（ラミナあり）、黒褐粗砂混じり微細砂～シルト、暗褐粗砂混じりシルト～粘土である。

遺物は黒色土器 B 類楕（1）が出土した。このほか出土できなかったが、土師器片？、弥生土器片が

出土した。出土遺物の年代から、古代～中世と考えられる。

SD14（図 6）

調査区北東部で検出した東西方向の溝状の遺構である。SD03 に切られるため、全体の形状は不明である。主軸方位 N-74.5°-W、検出面の標高は 19.70 m である。長さ約 1.24 m 以上を検出し、幅は約 0.36 m、深さは約 0.01 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、黒褐細礫混じりシルト～粘土である。

遺物は出土していない。埋土の状況と遺構の切り合い関係から、古代～中世以前と考えられる。

SD16（図 6）

調査区東部中央で検出した南北方向の溝状の遺構である。主軸方位 N-13°-E、検出面の標高は 19.70 m である。長さ約 1.92 m を検出し、幅は約 0.33 m、深さは約 0.02 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

遺物は土師器楕（2）が出土した。主軸方位と遺構の切り合い関係から、中世以降の飼溝と考えられる。

SD47（図 6）

調査区西部で検出した東西に直行する溝状の遺構である。主軸方位 N-85.5°-W である。検出面の標高は 19.56 m である。長さ約 2.03 m、幅約 0.38 m、深さ約 0.08 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、暗褐細砂～粗砂混じりシルト（やや粘質）である。

遺物は出土できなかったが、弥生土器片？が出土した。埋土の状況から、中世以降と考えられる。

SD01（図 7 ~ 14）

調査区中央で検出した遺構である。攪乱と SD03、SD33 に切られ、調査区外に延びるため、全体の形状は不明であるが、第 2・3 調査区南壁をほぼ占める 34.5 m の幅から第 1 調査区北壁では

川島郷遺跡

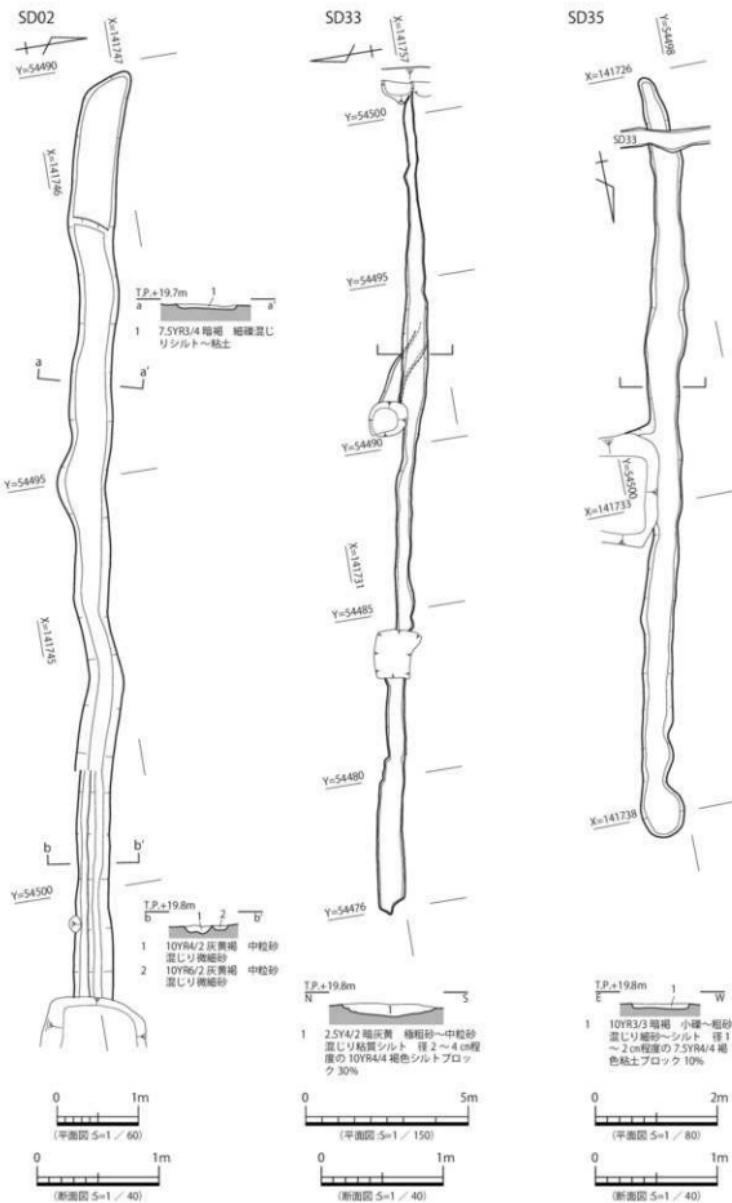


図 5 SD02・33・35 平・断面図 ($S = 1/60 \cdot 1/150 \cdot 1/80 \cdot 1/40$)

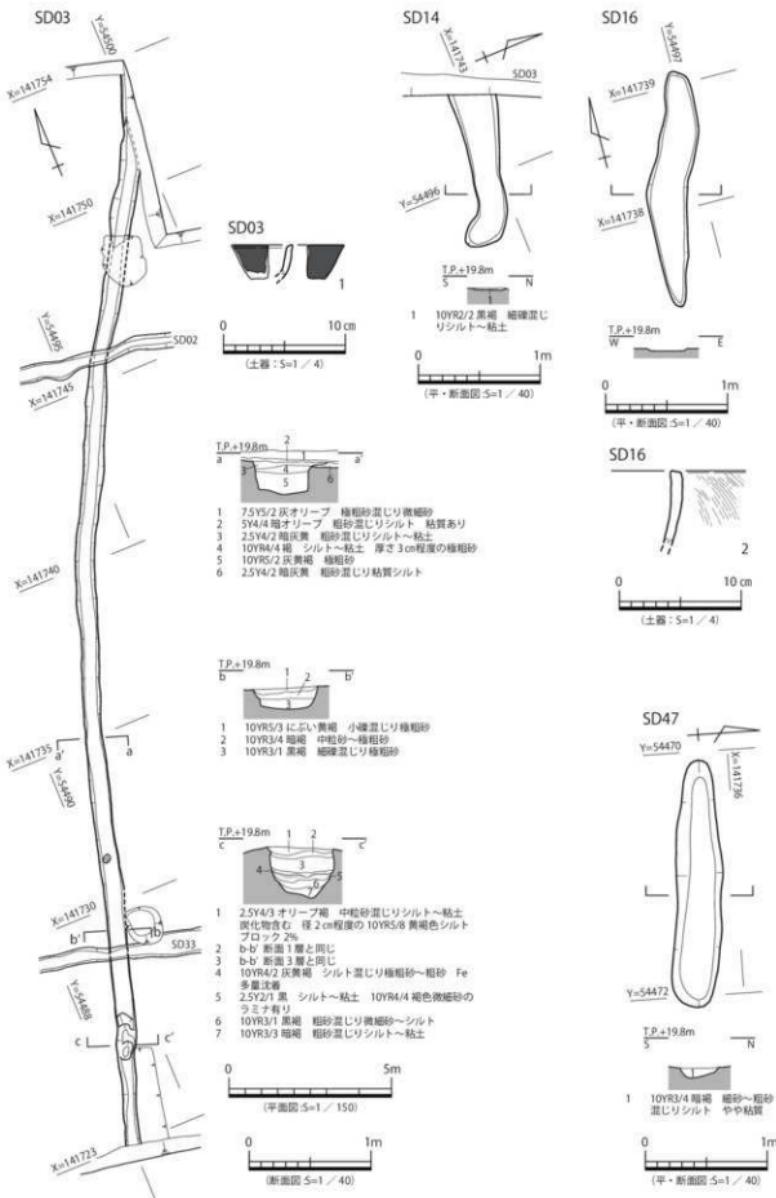


図 6 SD03・14・16・47 平・断面図 (S=1/150・1/40) 出土遺物実図 (S=1/4)

11.5 m に狭まり北上する。掘り込みの大きい 5 m 幅の大溝が東に大きく氾濫して形成されたと考えられる。調査区南壁際で西に屈折するが、屈折か分岐かは不明である。主軸方位 N-12.5°-E、検出面の標高は約 19.55 ~ 19.70 m である。検出長は約 32.22 m 以上、幅約 34.44 m 以上、深さ約 1.60 m を測る。断面形状は V 字形にテラスである。

掘削の範囲が狭小であったこと、また多量の湧水により壁面の崩落が発生したため、掘削を中止、安全を確保するため記録不足が生じた。

a-a' 断面で観察した埋土は 47 層に分層でき、I 期（34 ~ 39 層）、II 期（31 ~ 33 層）、III 期（27 ~ 30 層）、IV 期（16 ~ 26 層）、V 期（8 ~ 15 層）、VI 期（6 ~ 7 層）の順に埋没する。最終埋没で SD03 と SX21 をも覆う。東肩の落ち（40 ~ 52 層）は SD01 に付属するか不明であるが、II ~ IV 期までに埋没する。東肩の下層（53 ~ 76 層）は氾濫の攪拌による可能性があり、SD01 の埋土から外した。

VI 期は 2 層に分層でき、暗灰黄シルト～粘土と黄灰シルト～粘土である。

V 期は 8 層に分層でき、灰黄褐シルト～粘土、オリーブ黒シルト～粘土、黒シルト～粘土、暗灰黄シルト～粘土（植物遺存体含む）、黒極粗砂～細礫混じりシルト～粘土、灰シルト～粘土（植物遺存体含む）、暗灰シルト、黒シルト～粘土（植物遺存体含む）である。

IV 期は 11 層に分層でき、暗灰極粗砂～細礫混じり粘土、黒中粒砂～極粗砂混じり極細砂～粘土、黒シルト質粗砂～細礫、黒褐極粗砂混じり粘質シルト、黒シルト～粘土混じり粗砂～細礫、黒中粒砂～粗砂混じりシルト～粘土、黒褐極粗砂～細礫混じりシルト、黒中粒砂～細砂（植物遺存体含む）、黄褐中粒砂～極細砂、黒極粗砂～細礫、オリーブ黒シルト混じり中粒砂～粘土である。

III 期は 4 層に分層でき、黒シルト～粘土（植物遺存体含む）、暗オリーブ灰細礫混じりシルト～粘土（植物遺存体含む）、暗灰シルト～粘土（植物遺存体含む）の下層に暗オリーブ灰微細砂、黒細礫混じりシルト～粘土である。

II 期は 3 層に分層でき、黒中粒砂～細砂混じり

シルト～粘土、暗灰中粒砂～極粗砂混じりシルト～粘土、灰オリーブ細砂～中粒砂である。

I 期は 6 層に分層でき、暗灰シルト～粘土（植物遺存体含む）、黒シルト～粘土（植物遺存体含む）、暗灰粗砂～細礫混じり微細砂～シルト、暗灰シルト混じり粗砂～細礫、オリーブ黒シルト混じり微細砂～粗砂、灰シルト混じり細砂～中粒砂である。

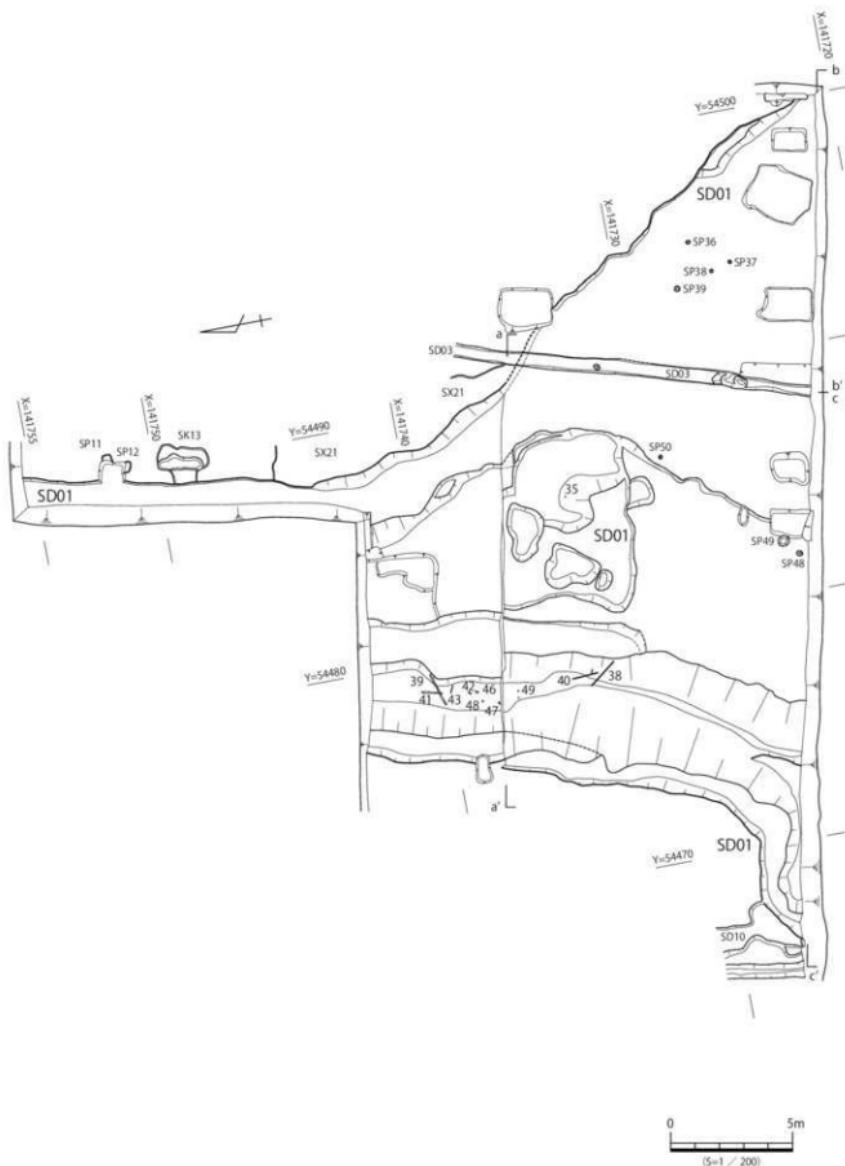
東肩落ちは 13 層に分層でき、暗灰中粒砂～細礫混じりシルト、灰粗砂～細礫混じりシルト、暗灰細礫混じりシルト、灰中粒砂混じりシルト、灰極粗砂～細礫混じりシルト、灰シルト～粘土、灰極粗砂～細礫混じりシルト、オリーブ黒粗砂～細礫質シルト、灰粗砂～細礫質シルト～粘土、暗灰中粒砂～粗砂混じりシルト～粘土、灰粗砂混じりシルト～粘土、灰中粒砂混じりシルトである。

東肩下層は 24 層に分層でき、暗灰シルト混じり極粗砂～細礫、灰シルト混じり中粒砂～極粗砂、オリーブ黒シルト混じり粗砂～中粒砂、オリーブ黒極粗砂～細礫混じりシルト、緑黒粗砂～細礫質シルト、黄褐中粒砂～細礫、灰オリーブ細砂～中粒砂、灰極粗砂～細礫質シルト、灰オリーブ細砂、灰オリーブ中粒砂～粗砂、黄褐極粗砂～細礫、灰シルト混じり細砂～中粒砂、灰シルト混じり粗砂～細礫、灰白中粒砂～細礫、灰中粒砂～粗砂混じりシルト、オリーブ黒シルト質細砂～細礫、オリーブ黒シルト混じり微細砂、暗灰シルト混じり極粗砂～細礫、黑粗砂混じりシルト～粘土、黑褐粗砂～細礫混じりシルト～粘土、黑シルト混じり極粗砂～細礫である。

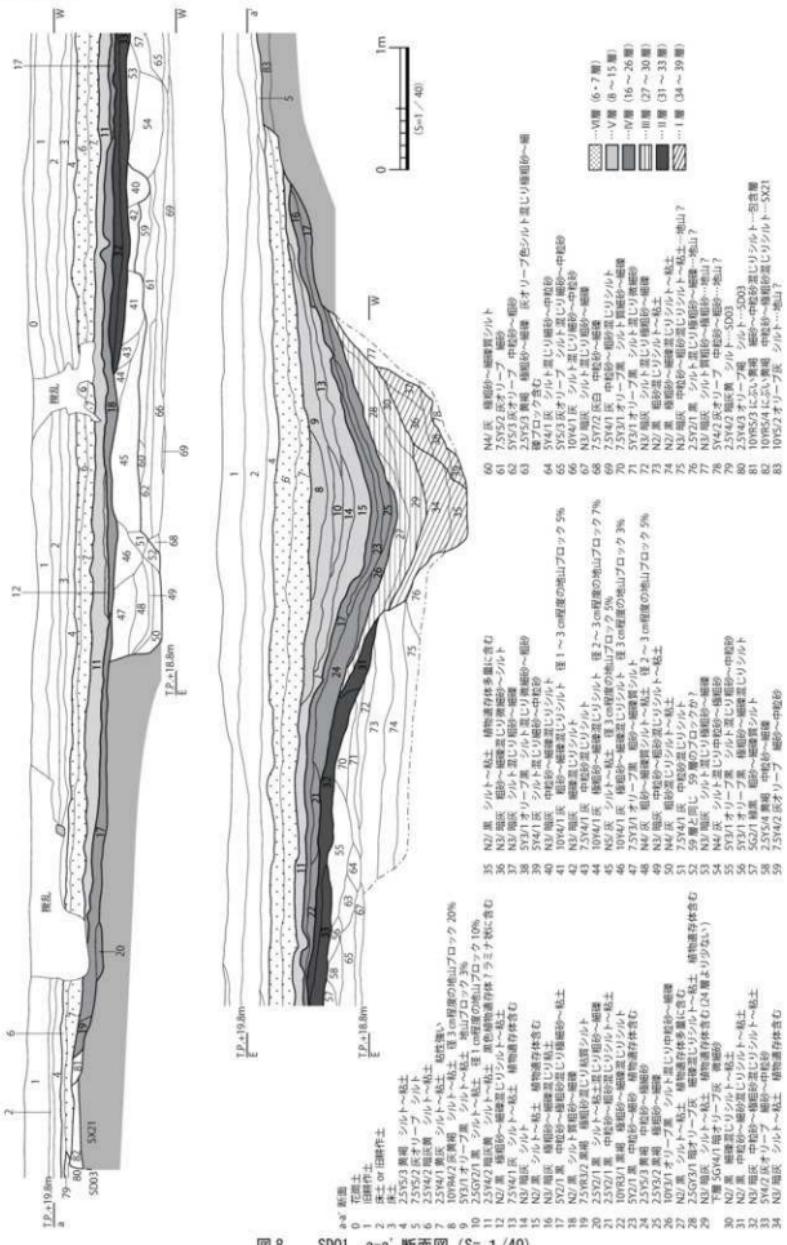
b-b' 断面で観察した埋土は 8 層に分層でき、I 期（11 ~ 16 層）、II 期（8 ~ 10 層）の順に埋没する。

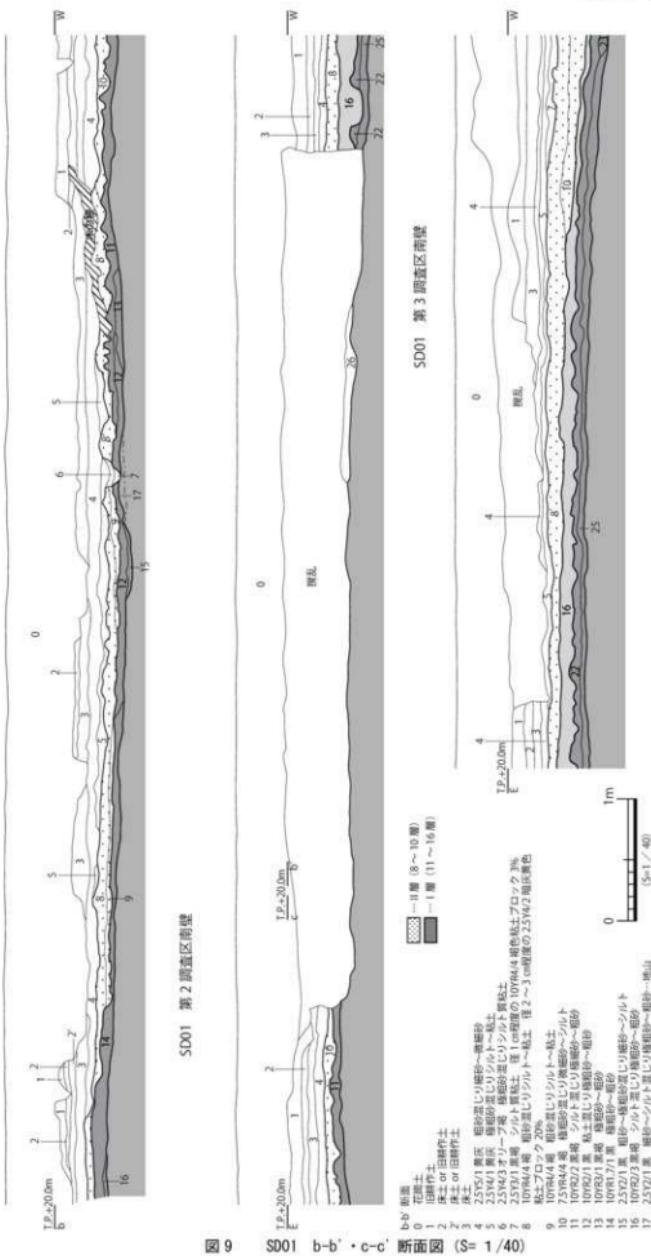
II 期は 3 層に分層でき、褐粗砂混じりシルト～粘土（暗灰黄色粘土ブロック 20%）、褐粗砂混じりシルト～粘土、褐極粗砂混じり微細砂～シルトである。

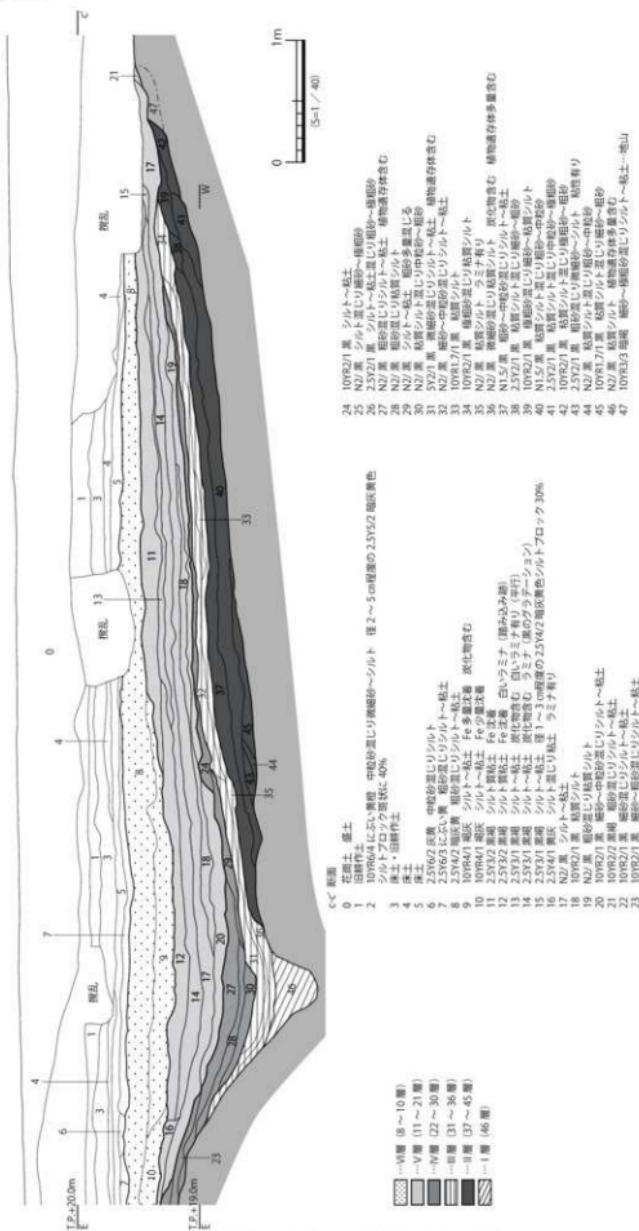
I 期は 6 層に分層でき、黒褐シルト混じり極細砂～粗砂、黒粘土混じり極粗砂～粗砂、黒褐極粗砂

図7 SD01 平面図 ($S=1/200$)

川島郷遺跡



図 9 SD01 b-b'・c-c' 断面図 ($S=1/40$)



～粗砂、黒極粗砂～粗砂、黒粗砂～極粗砂混じり細砂～シルト、黒褐シルト混じり極粗砂～粗砂である。

c-c' 断面で観察した埋土は39層に分層でき、I期(46層)、II期(37～45層)、III期(31～36層)、IV期(22～30層)、V期(11～21層)、VI期(8～10層)の順に埋没する。

VI期は3層に分層でき、暗灰黄粗砂混じりシルト～粘土、褐灰シルト～粘土、褐灰シルト～粘土で、鉄分が沈着する。

V期は11層に分層でき、黒褐シルト質粘土、黒褐シルト質粘土(踏み込み跡のラミナあり)、黒褐シルト～粘土(平行のラミナあり)、黒褐シルト～粘土(黒いグラデーションのラミナあり)、黒褐シルト～粘土、黄灰シルト混じり粘土(ラミナあり)、黒シルト～粘土、黒粘質シルト、黒粗砂混じり粘質シルト、黒細砂～中粒砂混じりシルト～粘土、黒褐粗砂混じりシルト～粘土である。

IV期は9層に分層でき、黒細砂混じりシルト～粘土、黒細砂～粗砂混じりシルト～粘土、黒シルト～粘土、黒シルト混じり細砂～極粗砂、黒シルト～粘土混じり粗砂～極粗砂、黒粗砂混じりシルト～粘土(植物遺存体含む)、黒粗砂混じり粘質シルト、黒粗砂混じりシルト～粘土、黒粘質シルト混じり中粒砂～粗砂である。

III期は6層に分層でき、黒微細砂混じりシルト～粘土(植物遺存体含む)、黒細砂～中粒砂混じりシルト～粘土、黒粘質シルト、黒極粗砂混じり粘質シルト、黒粘質シルト(ラミナあり)、黒微細砂混じり粘質シルト(植物遺存体含む)である。

II期は9層に分層でき、黒粗砂～中粒砂混じりシルト～粘土、黒粘質シルト混じり細砂～粗砂、黒極粗砂混じり細砂～粘質シルト、黒粘質シルト混じり粗砂～極粗砂、黒粘質シルト混じり極粗砂～粗砂、黒粗砂混じり微細砂～シルト、黒粘質シルト混じり粗砂～中粒砂、黒粘質シルト混じり細砂～粗砂である。

I期は単層で、黒粘質シルト(植物遺存体含む)である。

遺物はVI期から須恵器蓋(3・4)、須恵器杯A(5～7)、須恵器杯B(8・9)、黒色土器A類椀(10・

12)、黒色土器？椀(11)、須恵器壺(13)、須恵器壺(14・15)、須恵器杯身(16)、須恵器杯(17～19)、土師器杯(20)、土師器壺(21・22)、弥生土器(底部)(23)、石器スクレイパー(24)、骨(81・82)が出土したほか図化できなかったが、弥生土器片？、土師器片、須恵器片、須恵器蓋、須恵器杯A、黒色土器A類片、焼土塊、骨？が出土した。須恵器壺(14)はSP36～39の上層(b-b'断面8・9層)付近で出土した。

V期から土師器壺(25)、土師器鍋(26)が出土したほか図化できなかったが、弥生土器片、土師器片、須恵器片が出土した。

IV期から土師器高杯(27～29)、土師器鉢(30・31)、サヌカイト剥片(32)が出土したほか図化できなかったが、弥生土器片、弥生or土師器片、土師器片が出土した。

東肩落ちから須恵器杯A(33)、須恵器杯？(34)、木器杭(35)が出土したほか図化できなかったが、弥生土器片、土師器片、須恵器片、サヌカイト剥片が出土した。

III期から土師器高杯(36)、木器はしご(37・38)、木器杭(39・41～43・46～52)、木器杭？(40)、木器(板状)(44)、木器(棒状)(45)が出土したほか図化できなかったが、弥生土器片、土師器片、土師器壺？、木器が出土した。木器杭(35・42・46～49)は垂直方向に構えて検出した。

II期から図化できなかったが、弥生土器片が出土した。

I期から弥生土器壺V様式(53)が出土したほか図化できなかったが、弥生土器壺、玉虫が出土した。

このほか出土層位不明で土師器皿or杯(54)、骨(83)が出土した。図化できなかったが、弥生土器片、土師器片、須恵器片、焼土塊、サヌカイト剥片、木器が出土した。出土遺物の年代から、VI期は古代～中世、V・IV・III期は古墳時代前期、I期は弥生時代後期と考えられる。

SD10(図15・16)

調査区西部で検出した南北方向の溝状の遺構であ

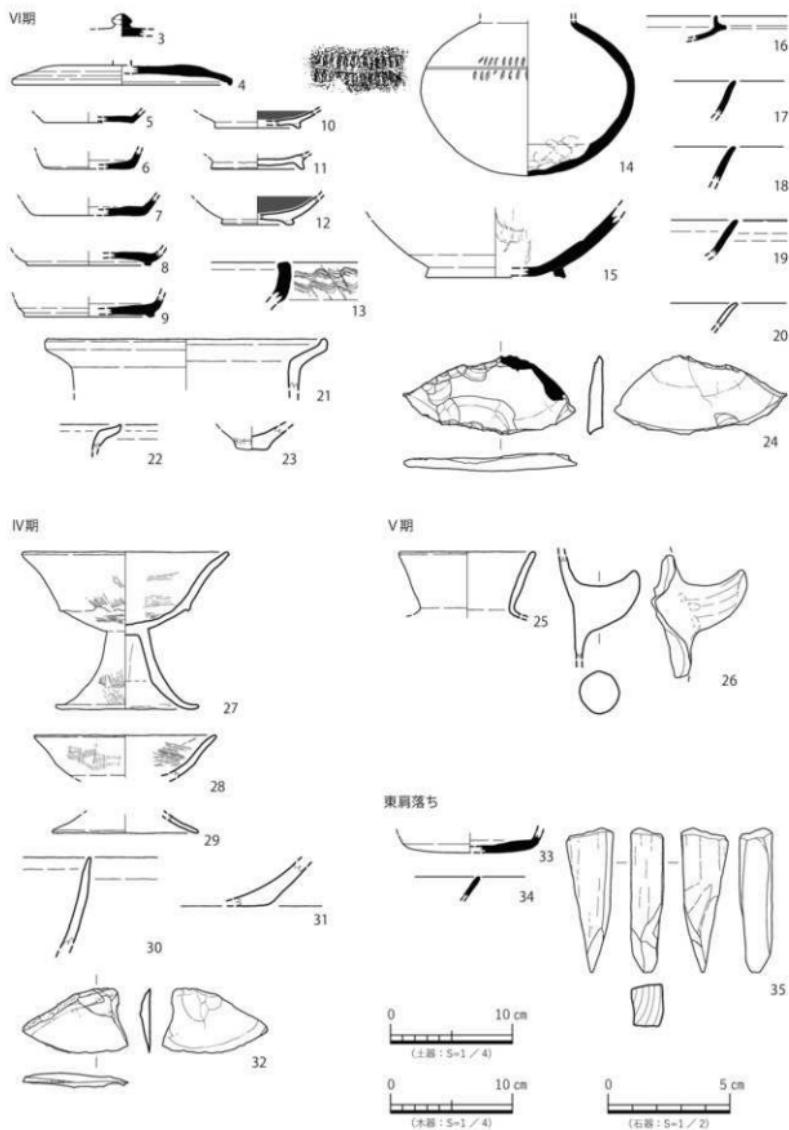


図 11 S001 出土遺物実測図① (S= 1/4・1/2)

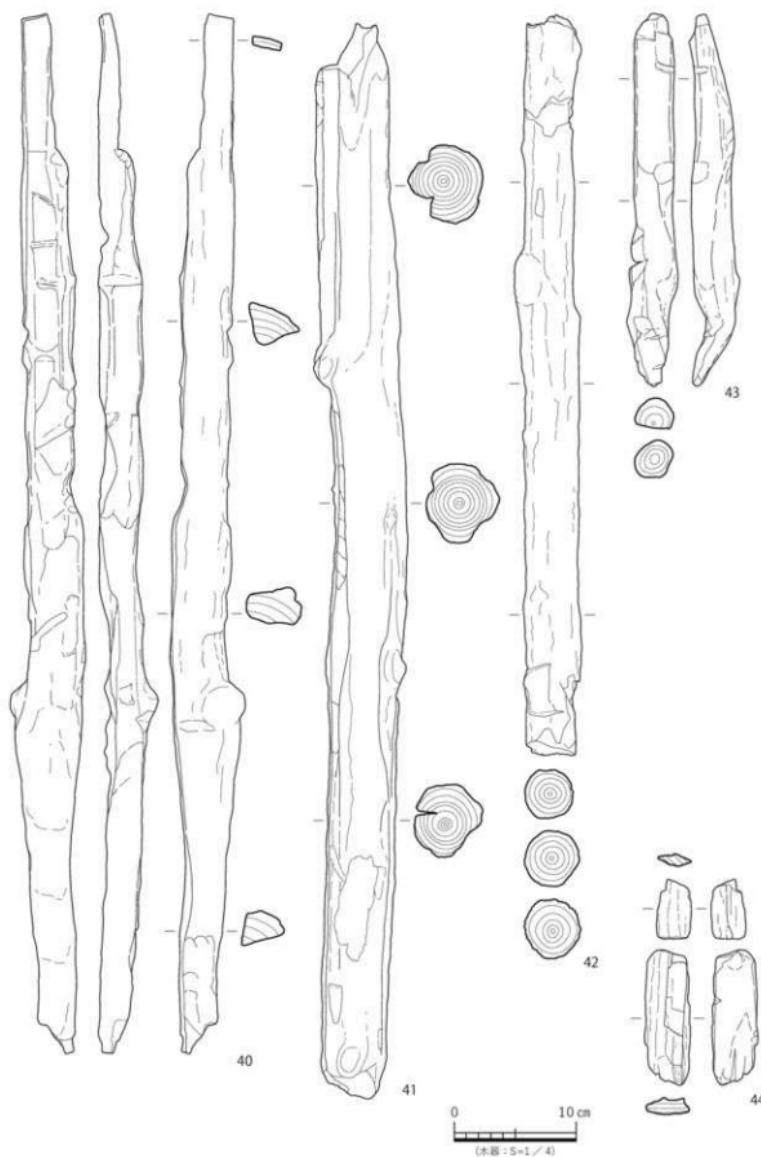


図13 SD01 出土遺物実測図③ (S= 1 / 4)

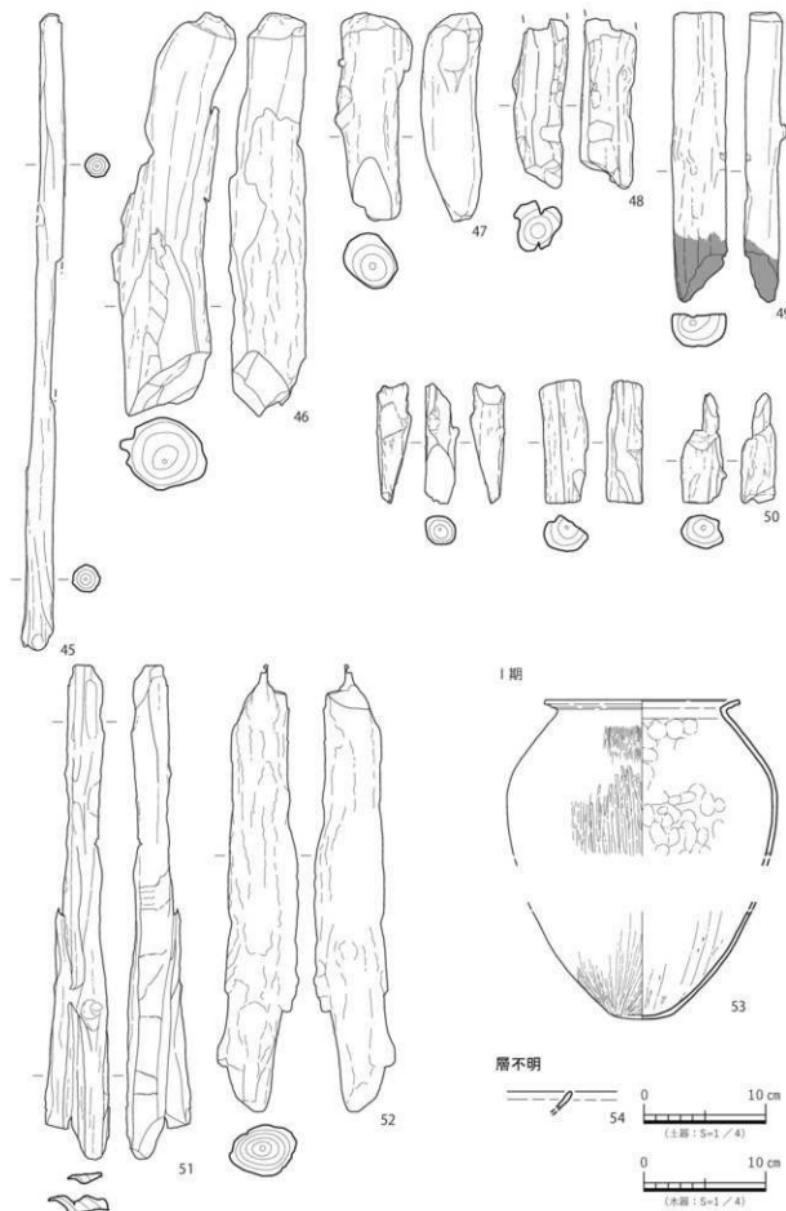
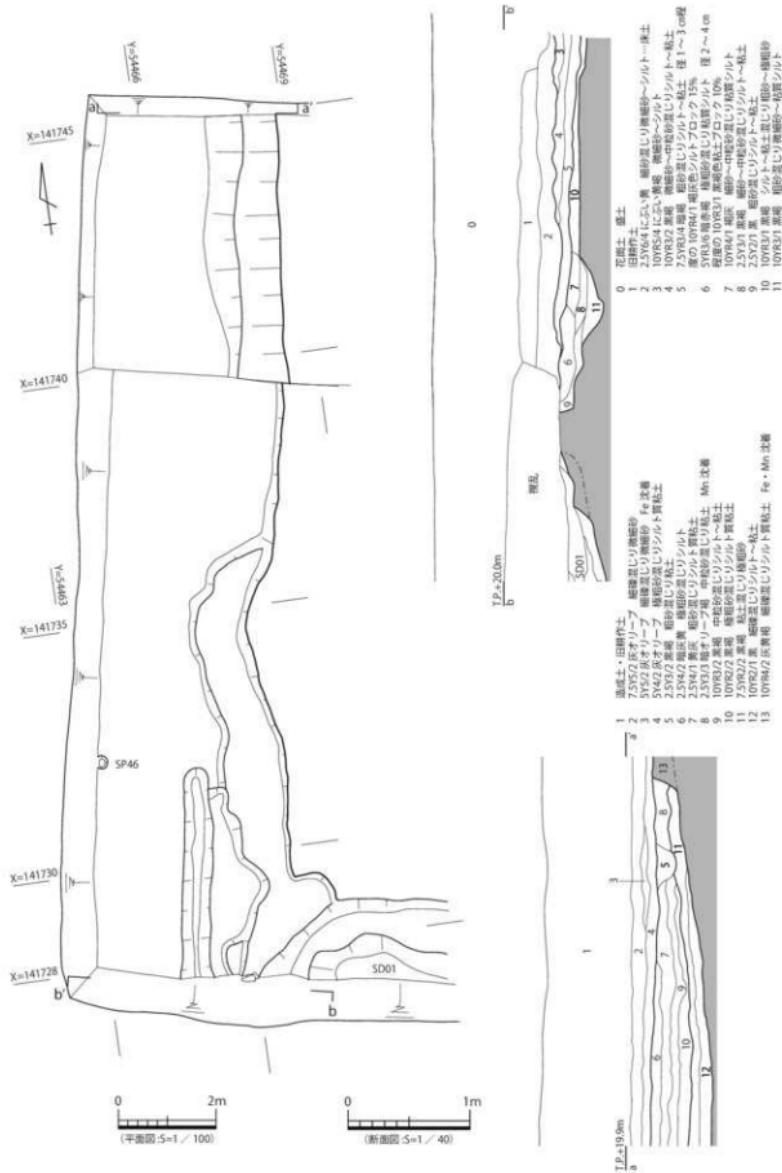


図 14 SD01 出土遺物実測図④ (S= 1 / 4)



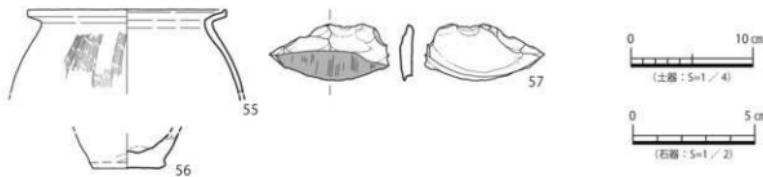


図 16 SD10 出土遺物実測図 (S= 1 / 4 • 1 / 2)

る。SP46 に切られ、調査区外に延びるため、全体の形状は不明である。SD01 との切り合い関係は、平面上ははっきりせず、断面上では攪乱に切られていたため確定できない。主軸方位 N-8°-E、検出面の標高は 19.70 ~ 19.55 m である。長軸約 17.64 m 以上を検出し、幅は約 3.93 m 以上、深さは約 0.50 ~ 0.66 m を測る。断面形状は浅い皿状に断落ちである。

a-a' 断面で観察した埋土は 8 層に分層でき、下層(11・12 層)、上層(5 ~ 10 層)の順に埋没する。

上層は 6 層に分層でき、黒褐粗砂混じり粘土、暗灰黄極粗砂混じりシルト、黄灰粗砂混じりシルト質粘土、暗オリーブ褐中粒砂混じり粘土(マンガン沈着)、黒褐中粒砂混じりシルト～粘土、黒褐極粗砂混じりシルト質粘土、下層は 2 層に分層でき、黒褐粘土混じり極粗砂、黒細疊混じりシルト～粘土である。

b-b' 断面で観察した埋土は 9 層に分層でき、下層(6 ~ 11 層)、上層(3 ~ 5 層)の順に埋没する。

上層は 3 層に分層でき、にぶい黄褐微細砂～シルト、黒褐微細砂～中粒砂混じりシルト～粘土、暗褐粗砂混じりシルト～粘土、下層は 6 層に分層でき、暗赤褐極粗砂混じり粘質シルト、褐灰細砂～中粒砂混じり粘質シルト、黒褐細砂～中粒砂混じりシルト～粘土、黒粗砂混じりシルト～粘土、黒褐シルト～粘土混じり粗砂～極粗砂、黒褐粗砂混じり微細砂～粘質シルトである。

遺物は b-b' 断面下層を中心に弥生土器甕(55・56)、打製石斧片を加工したサヌカイト剥片(57)が出土したほか図化できなかったが、下層から弥生土器片、サヌカイト剥片、上層から須恵器片(十瓶山窯跡群第Ⅲ～Ⅳ期)の特徴を持つ甕肩部、白く、頬

部との接合面で割れている、外面に叩き内面は丁寧なナデ消し)、肩から弥生土器片が出土した。出土遺物と埋土の状況から、弥生時代後期～鎌倉時代と考えられる。

SK04 (図 17)

調査区北東部で検出した土坑状の遺構である。攪乱に切られるため、全体の形状は不明であるが、検出した平面形状は楕円形である。主軸方位 N-56.5°-E、検出面の標高は 19.64 m である。長軸は約 0.97 m、短軸は約 0.58 m、深さは約 0.03 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、灰黄褐細疊混じり粘土である。

遺物は出土していないため、詳細な時期は不明である。

SK13 (図 17)

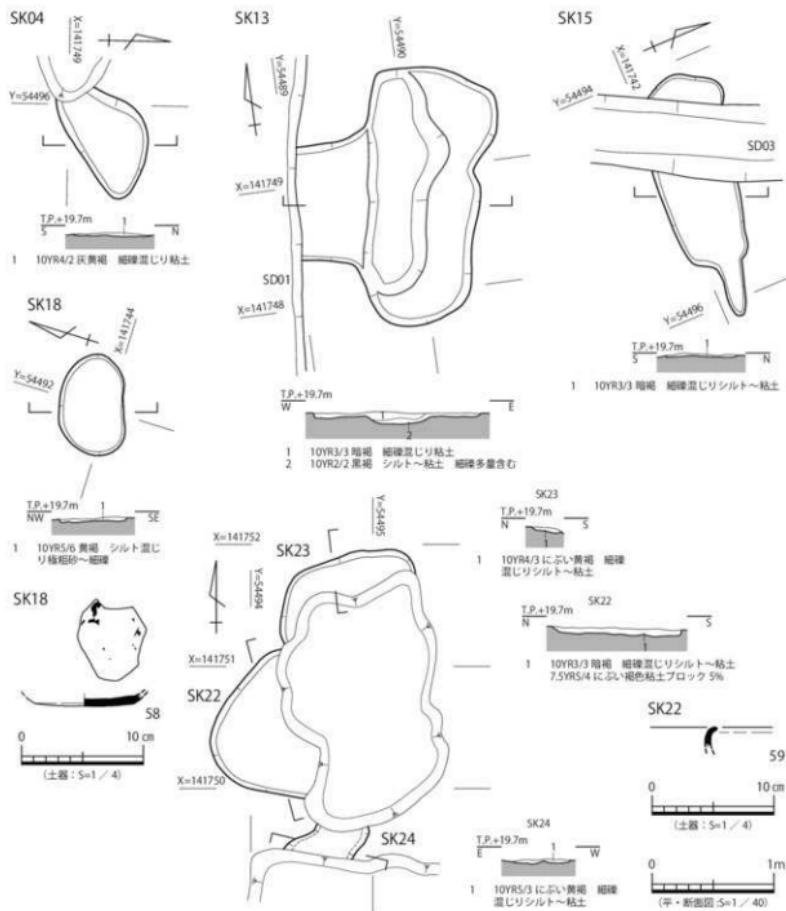
調査区北東部で検出した土坑状の遺構である。SD01 に切られるため、全体の形状は不明であるが、検出した平面形状は不整形である。主軸方位 N-12°-E、検出面の標高は 19.60 m である。長軸は約 2.13 m、短軸は約 1.50 m、深さは約 0.10 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は 2 層に分層でき、上層が暗褐細疊混じり粘土、下層が黒褐シルト～粘土である。

遺物は出土していないため、詳細な時期は不明である。

SK15 (図 17)

調査区北東部で検出した土坑状の遺構である。SD03 に切られるため、全体の形状は不明であるが、検出した平面形状は不整形である。主軸方位

図 17 SK04・13・15・18・22・23・24 平・断面図 ($S=1/40$) 出土遺物実測図 ($S=1/4$)

N-82.5°-W、検出面の標高は 19.70 m である。長軸は約 2.05 m、短軸は約 0.63 m、深さは約 0.03 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、暗褐色細礫混じりシルト～粘土である。

遺物は土師器片が出土した。埋土の状況と遺構の切り合い関係から、古代～中世と考えられる。

SK18 (図 17)

調査区北東部で検出した土坑状の遺構である。SK21 上層で、検出した平面形状は梢円形である。主軸方位 N-77°-E、検出面の標高は 19.65 m である。長軸は約 0.83 m、短軸は約 0.54 m、深さは約 0.04 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、黄褐色シルト混じり極粗砂～細礫である。

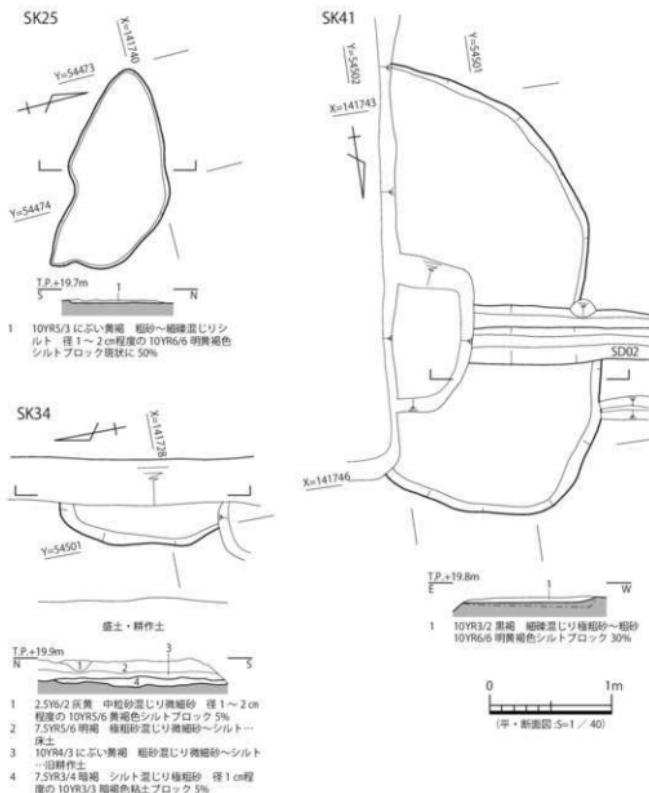


図 18 SK25・34・41 平・断面図 (S= 1/40)

遺物は須恵器の器種不明(58)が出土した。内面に漆が付着する。出土遺物と埋土の状況から、古代以降と考えられる。

SK22(図17)

調査区北東部で検出した土坑状の遺構である。擾乱に切られるため、全体の形状は不明であるが、検出した平面形状は梢円形と考えられる。主軸方位 N-11°-W、検出面の標高は 19.62 m である。長軸は約 0.86 m、短軸は約 0.82 m、深さは約 0.08 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は单層で、暗緑細疊混じりシルト～粘土で

ある。

遺物は須恵器壺(59)、土師器片が出土した。出土遺物と埋土の状況から、古代～中世と考えられる。

SK23(図17)

調査区北東部で検出した土坑状の遺構である。擾乱に切られるため、SK22との切り合い関係や全体の形状は不明であるが、検出した平面形状は梢円形と考えられる。主軸方位 N-60.5°-E、検出面の標高は 19.63 m である。長軸は約 1.24 m、短軸は約 0.34 m、深さは約 0.05 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、にぶい黄褐色細礫混じりシルト～粘土である。

遺物は土師器片が出土したが細片であるため詳細な時期は不明である。

SK24（図17）

調査区北東部で検出した土坑状の遺構である。擾乱に切られるため、全体の形状は不明であるが、検出した平面形状は不整形である。主軸方位 N-77°-E、検出面の標高は 19.60 m である。長軸は約 0.72 m、短軸は約 0.27 m、深さは約 0.04 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、にぶい黄褐色細礫混じりシルト～粘土である。

遺物は須恵器壺？（底部）が出土したが細片であるため詳細な時期は不明である。

SK25（図18）

調査区西部で検出した土坑状の遺構である。検出した平面形状は不整形である。主軸方位 N-54°-W、検出面の標高は 19.62 m である。長軸は約 1.73 m、短軸は約 0.87 m、深さは約 0.03 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、にぶい黄褐色粗砂～細礫混じりシルトである。

遺物は出土していないため時期は不明である。

SK34（図18）

調査区東部で検出した土坑状の遺構である。擾乱に切られ、調査区外に延びるが、検出した平面形状から梢円形と思われる。主軸方位 N-10.5°-E、検出面の標高は 19.72 m である。長軸は約 1.34 m、短軸は約 0.34 m、深さは約 0.06 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、暗褐色シルト混じり極粗砂である。

遺物は出土していないため時期は不明である。

SK41（図18）

調査区東部で検出した土坑状の遺構である。擾乱と SD02 に切られるが、平面形状は梢円形と思われる

。主軸方位 N-9°-W、検出面の標高は 19.69 m である。長軸は約 3.87 m、短軸は約 1.86 m、深さは約 0.05 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、黒褐色細礫混じり極粗砂～粗砂である。

遺物は出土していないため時期は不明である。

SX19（図19）

調査区東部中央で検出した性格不明遺構である。擾乱に切られるため、全体の形状は不明であるが、検出した平面形状は不整形である。主軸方位 N-72.5°-E、検出面の標高は 19.70 m である。長軸約 4.88 m を検出し、短軸は約 3.08 m、深さは約 0.08 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、黒褐色シルト混じり極粗砂～粗砂である。

遺物は土師器片が出土したが細片であるため詳細な時期は不明である。

SX20（図19）

調査区東部中央で検出した性格不明遺構である。擾乱と SD03 と SD16 に切られるため、全体の形状は不明であるが、検出した平面形状は不整形である。SX21 と同一の遺構と考えられる。主軸方位 N-15°-E、検出面の標高は 19.70 m である。長軸約 5.79 m を検出し、短軸は約 5.11 m、深さは約 0.09 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、黒褐色シルト混じり粗砂～極粗砂である。

遺物は須恵器壺（60）、弥生土器片、土師器片、須恵器片が出土した。出土遺物と遺構の切り合い関係から、古代と考えられる。

SX21（図19）

調査区中央で検出した性格不明遺構である。SD01 と SD03 と SK18 に切られるため、全体の形状は不明であるが、検出した平面形状は不整形である。SX20 と同一の遺構と考えられる。主軸方位 N-14.5°-W、検出面の標高は 19.68 m である。長軸約 10.93 m を検出し、短軸は約 6.40 m、深さは

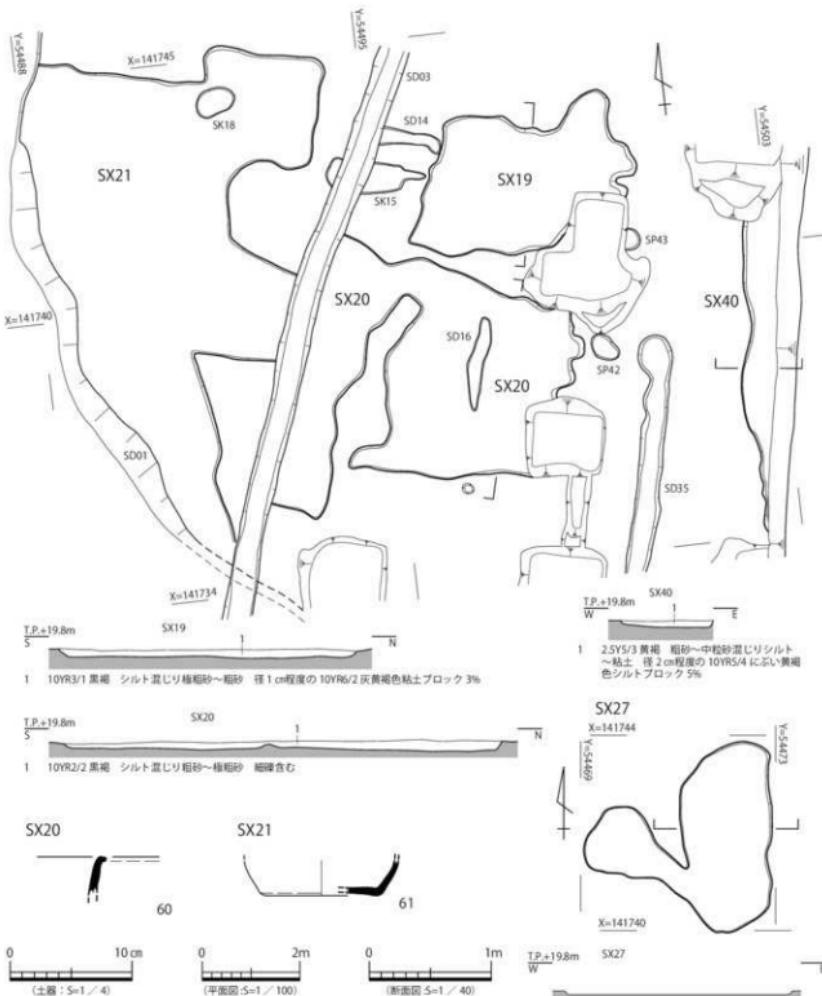


図 19 SX19・20・21・27・40 平・断面図 (S= 1/100・1/40) 出土遺物実測図 (S= 1/4)

約0.08 mを測る。断面形状は浅い皿状である。

遺物は須恵器杯A(61)、土師器片、須恵器片が出土した。出土遺物と埋立の状況から、古代と考えられる。

SX27 (図 19)

調査区西部で検出した性格不明遺構である。検出した平面形状は不整形である。主軸方位 N-71°-W、検出面の標高は 19.60 m である。長軸約 3.99 m を検出し、短軸は約 3.95 m、深さは約 0.05 m を測る。

断面形状は浅い皿状である。

遺物は弥生土器片が出土したが細片であるため詳細な時期は不明である。

SX40（図 19）

調査区東部で検出した性格不明遺構である。擾乱に切られ、調査区外に延びるため、全体の形状は不明である。主軸方位 N-8.5°-E、検出面の標高は 19.70 m である。長軸は約 7.08 m 以上を検出し、短軸は約 0.76 m、深さは約 0.06 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、灰黄褐色粗砂～中粒砂混じりシルト～粘土である。

遺物は土師器片？、サヌカイト剥片が出土したが細片であるため詳細な時期は不明である。

SP05（図 20）

調査区北東部で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は 19.62 m である。長軸は約 0.41 m、短軸は約 0.37 m、深さは約 0.04 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、灰黄褐色粗砂混じり粘土である。

遺物は出土していない。

SP06（図 20）

調査区北東部で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は 19.62 m である。長軸は約 0.42 m、短軸は約 0.41 m、深さは約 0.03 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、灰黄褐色粗砂混じり粘土である。

遺物は出土していない。

SP07（図 20）

調査区北東部で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は 19.62 m である。長軸は約 0.33 m、短軸は約 0.31 m、深さは約 0.03 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、灰黄褐色粗砂混じり粘土である。

遺物は出土していない。

SP08（図 20）

調査区北東部で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は梢円形である。主軸方位 N-81°-E、検出面の標高は 19.62 m である。長軸は約 0.37 m、短軸は約 0.26 m、深さは約 0.03 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、灰黄褐色粗砂混じり粘土である。

遺物は出土していない。

SP09（図 20）

調査区北東部で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は 19.61 m である。長軸は約 0.41 m、短軸は約 0.37 m、深さは約 0.04 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、灰黄褐色粗砂混じり粘土である。

遺物は出土していない。

SP11（図 20）

調査区北東部で検出したピット状の遺構である。擾乱に切られるため、全体の形状は不明である。検出した平面形状は隅丸方形と考えられる。主軸方位 N-0.5°-E、検出面の標高は 19.61 m である。長軸は約 0.41 m、短軸は約 0.34 m 以上、深さは約 0.04 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

遺物は出土していない。

SP12（図 20）

調査区北東部で検出したピット状の遺構である。擾乱に切られるため、全体の形状は不明である。検出した平面形状は梢円形と考えられる。主軸方位 N-64°-W、検出面の標高は 19.60 m である。長軸は約 0.47 m、短軸は約 0.23 m 以上、深さは約 0.02 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

遺物は出土していない。

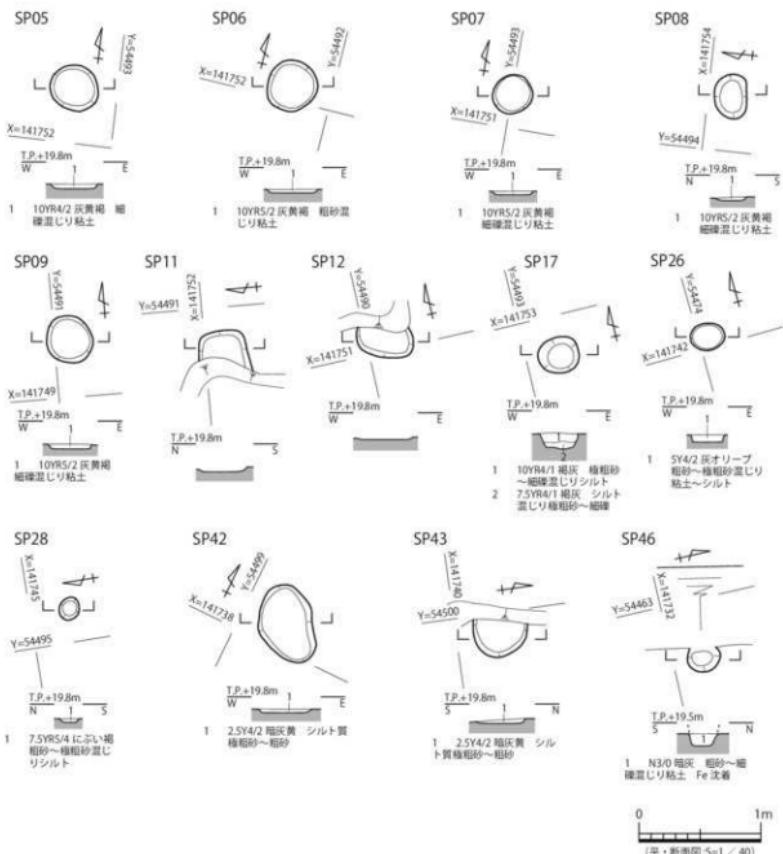


図 20 第1面 SP 平・断面図 (S= 1/40)

SP17 (図 20)

調査区北東部で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は19.62mである。長軸は約0.34m、短軸は約0.30m、深さは約0.14mを測る。断面形状は逆台形である。

埋土は2層に分層でき、上層が褐灰極粗砂～細緻混じりシルト、下層が褐灰シルト混じり極粗砂～細緻である。

遺物は出土していない。

SP26 (図 20)

調査区西部で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は楕円形である。主軸方位N-85°-W、検出面の標高は19.57mである。長軸は約0.28m、短軸は約0.22m、深さは約0.06mを測る。断面形状は箱状である。

埋土は単層で、灰オリーブ粗砂～極粗砂混じり粘土～シルトである。

遺物は出土していない。

SP28（図 20）

調査区北東部で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は 19.68 m である。長軸は約 0.20 m、短軸は約 0.17 m、深さは約 0.06 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、にぶい褐粗砂～極粗砂混じりシルトである。

遺物は出土していない。

SP42（図 20）

調査区東部で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は梢円形である。主軸方位 N-44°-W、検出面の標高は 19.70 m である。長軸は約 0.66 m、短軸は約 0.46 m、深さは約 0.03 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、暗灰黄シルト質極粗砂～粗砂である。

遺物は出土していない。

SP43（図 20）

調査区東部で検出したピット状の遺構である。擾乱に切られるが、検出した平面形状は半円形である。主軸方位 N-9°-E、検出面の標高は 19.68 m である。長軸は約 0.44 m、短軸は約 0.30 m 以上、深さは約 0.04 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、暗灰黄シルト質極粗砂～粗砂である。

遺物は出土していない。

SP46（図 20）

調査区西部で検出したピット状の遺構である。SD10 を切る。調査区外に延びるが、平面形状は円形と思われる。検出面の標高は 19.41 m である。長軸は約 0.28 m、短軸は約 0.21 m 以上、深さは約 0.10 m を測る。断面形状は U 字形である。

埋土は単層で、暗灰粗砂～細礫混じり粘土である。

遺物は出土していない。

2) 2 次調査第2面の調査

第2面は、第1面の遺構検出面である包含層を除去した後、黄褐粗砂混じりシルトの地山層上面である。溝と土坑、性格不明遺構、ピットを検出した。

SD30（図 22）

調査区西部の SX27 下層で検出した溝状の遺構である。南から西に弧を描き、SD01 と SD10 に切られるため、全体の形状は不明である。主軸方位 N-79.5°-W から N-20°-W、検出面の標高は 19.62 m である。長さ約 9.72 m 以上を検出し、幅は約 0.33 m、深さは約 0.17 m を測る。断面形状は方形である。

埋土は 2 層に分層でき、上層が黒粗砂～細礫混じりシルト～粘土、下層が黒粗砂～シルト混じり極粗砂（粘性有り）である。

遺物は土師器片？、弥生土器片？が出土した。出土遺物と遺構の切り合い関係から、古墳時代前期と考えられる。

SK31（図 23）

調査区西部で検出した土坑状の遺構である。作業上、調査区をまたいたためいびつだが、検出した平面形状は長方形である。主軸方位 N-5.5°-W、検出面の標高は 19.59 m である。長軸は約 1.77 m、短軸は約 0.72 m、深さは約 0.13 m を測る。断面形状は椀状である。

埋土は単層で、暗オリーブ褐中粒砂～粗砂混じりシルト～粘土である。

遺物は土師器片？が出土した。出土遺物と遺構の切り合い関係から、古代と考えられる。

SK44（図 23）

調査区東部の SX19 下層で検出した土坑状の遺構である。検出した平面形状は梢円形である。主軸方位 N-19°-W、検出面の標高は 19.66 m である。長軸は約 0.91 m、短軸は約 0.59 m、深さは約 0.08 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、暗褐極粗砂混じり細砂～粘土である。

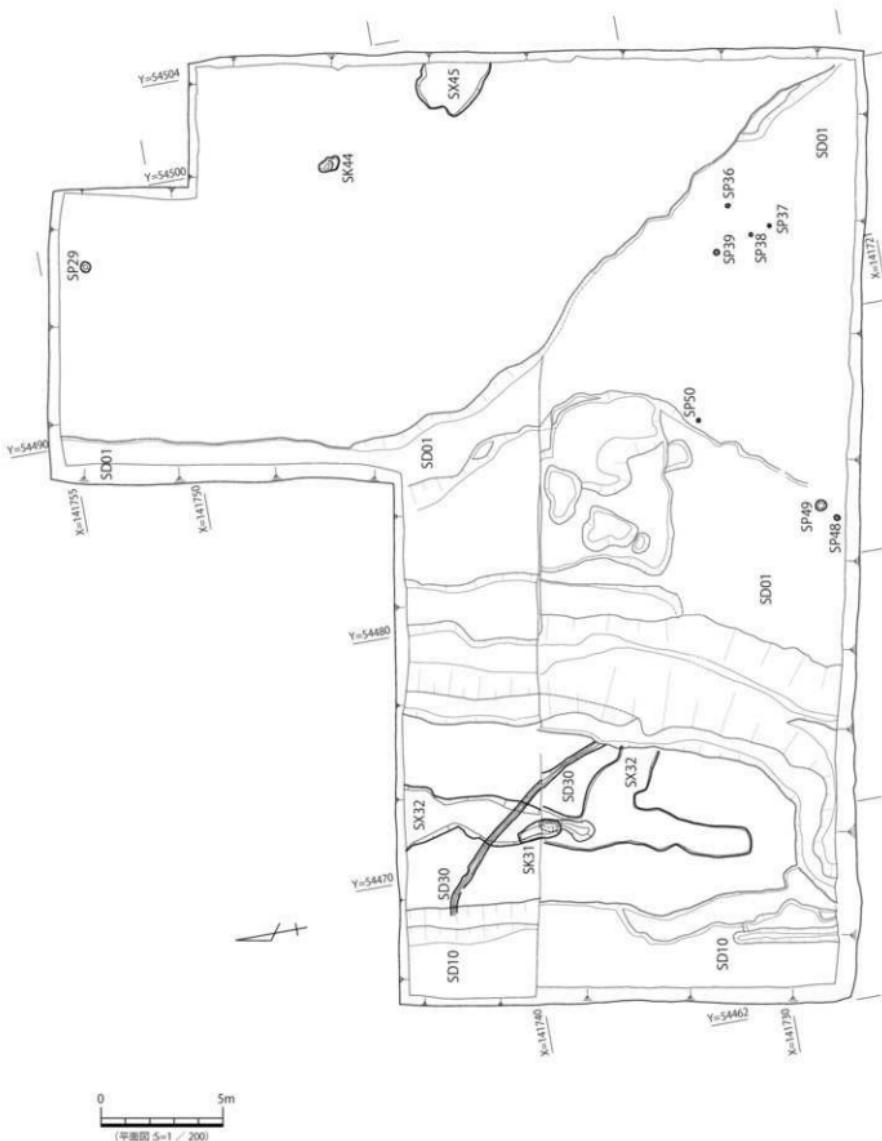
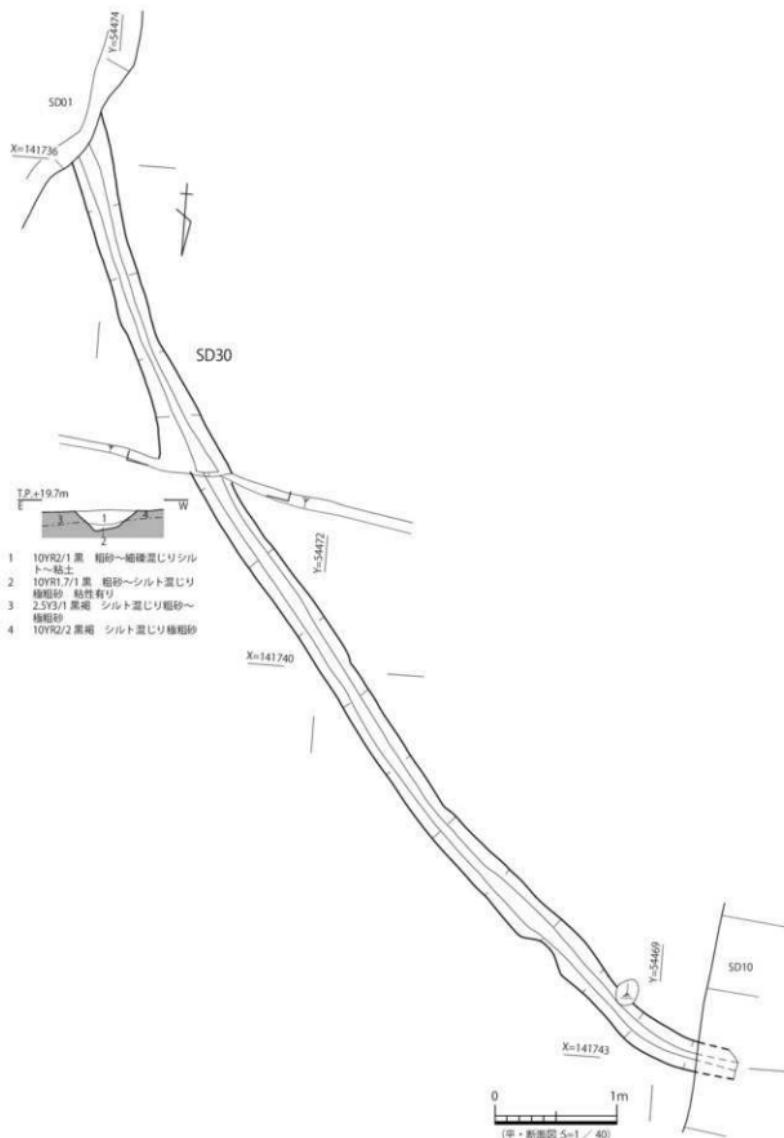


図21 第2面造構配置図 (S= 1/200)

図 22 SD30 平・断面図 ($S=1/40$)

川島郷遺跡

遺物は出土していない。遺構の切り合いで関係から、古代以前と考えられる。

SX32（図24）

調査区西部で検出した性格不明遺構である。南北に直行、東に分歧し、調査区外に延びるため、全体の形状は不明である。SD01・SX27・SD30・SK31・SD47に切られる。主軸方位N-15°-E、検出面の標高は19.55 mである。長さ約 14.29 m以上を検出し、幅は約 4.10 m、深さは約 0.28 mを測る。断面形状は浅い皿状である。

所見で自然流路と考えたため、埋土は写真のみで観察していない。

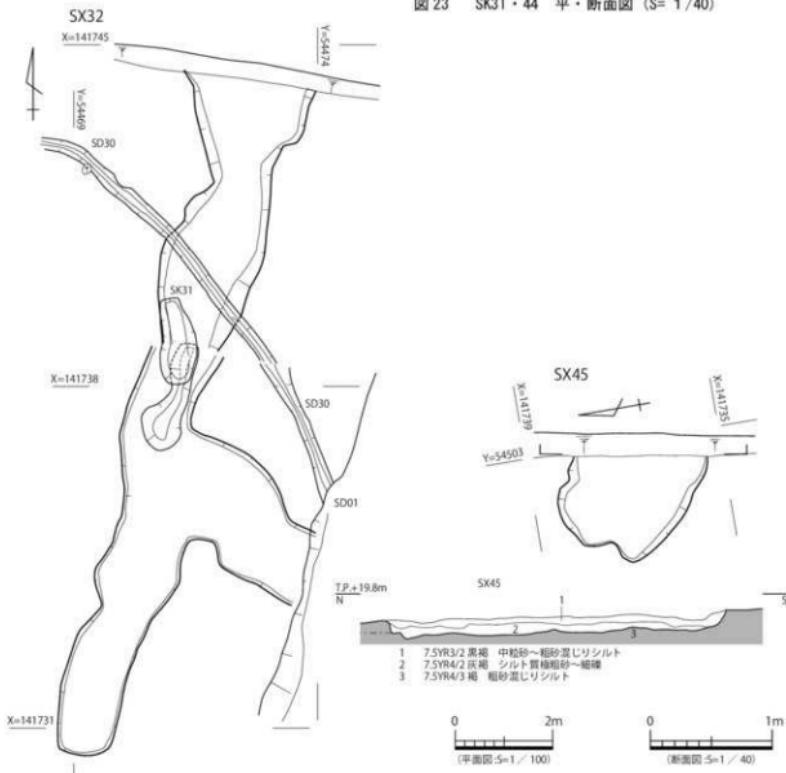
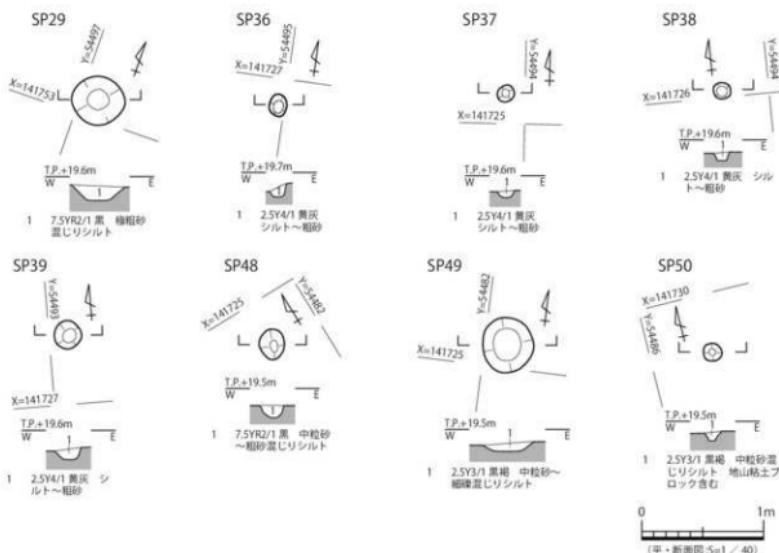


図24 SX32・45 平・断面図 ($S=1/100 \cdot 1/40$)

図 25 第2面 SP 平・断面図 ($S=1/40$)

遺物は弥生土器片、サヌカイト剥片が出土した。出土遺物と遺構の切り合い関係から、弥生時代と考えられる。

SX45 (図 24)

調査区東部のSX40下層で検出した性格不明遺構である。調査区外に延びるため、全体の形状は不明である。主軸方位 N-31.5°-E。検出面の標高は 19.67 m である。長軸は約 2.56 m 以上を検出し、短軸は約 2.40 m 以上、深さは約 0.24 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は 2 層に分層でき、上層が黒褐中粒砂～粗砂混じりシルト、下層が灰褐シルト質粗砂～細礫である。

遺物は弥生土器片? が出土した。出土遺物と埋土の状況から、弥生時代と考えられる。

SP29 (図 25)

調査区北東部で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は

19.54 m である。長軸は約 0.44 m、短軸は約 0.40 m、深さは約 0.14 m を測る。断面形状は逆台形である。

埋土は単層で、黒極粗砂混じりシルトである。遺物は出土していない。

SP36 (図 25)

調査区南東部のSD01下層で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は 19.61 m である。長軸は約 0.18 m、短軸は約 0.14 m、深さは約 0.11 m を測る。断面形状は逆台形である。

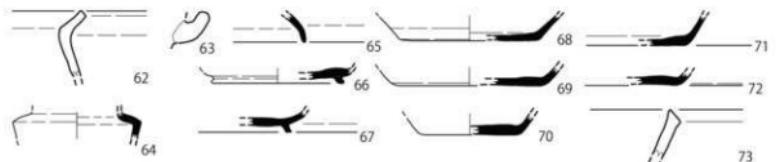
埋土は単層で、黄灰シルト～粗砂である。

遺物は出土していない。埋土の状況と遺構の切り合い関係から、古代以前と考えられる。

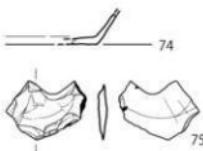
SP37 (図 25)

調査区南東部のSD01下層で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は 19.48 m である。長軸は約 0.14 m、短軸は約 0.13 m、深さは約 0.06 m を測る。断面形

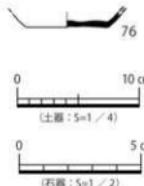
重機掘削



精査



第1面清掃



包含層(第1面直上)



包含層(第2面)



図26 遺構外出土遺物 (S= 1/4・1/2)

状は椀状である。

埋土は単層で、黄灰シルト～粗砂である。

遺物は出土していない。埋土の状況と遺構の切り合い関係から、古代以前と考えられる。

SP38 (図25)

調査区南東部のSDO1下層で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は19.50 mである。長軸は約0.15 m、短軸は約0.14 m、深さは約0.07 mを測る。断面形状は逆台形である。

埋土は単層で、黄灰シルト～粗砂である。

遺物は出土していない。埋土の状況と遺構の切り合い関係から、古代以前と考えられる。

SP39 (図25)

調査区南東部のSDO1下層で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は19.46 mである。長軸は約0.24 m、短軸は約0.23 m、深さは約0.10 mを測る。断面形状は逆台形である。

埋土は単層で、黄灰シルト～粗砂である。

埋土の状況と遺構の切り合い関係から、古代以前と

考えられる。

SP48 (図25)

調査区南部のSDO1下層で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は19.36 mである。長軸は約0.25 m、短軸は約0.21 m、深さは約0.10 mを測る。断面形状は椀状である。

埋土は単層で、黒中粒砂～粗砂混じりシルトである。

遺物は出土していない。埋土の状況と遺構の切り合い関係から、古代以前と考えられる。

SP49 (図25)

調査区南部のSDO1下層で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は19.40 mである。長軸は約0.45 m、短軸は約0.42 m、深さは約0.08 mを測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、黒褐中粒砂～細礫混じりシルトである。

遺物は出土していない。埋土の状況と遺構の切り合い関係から、古代以前と考えられる。

SP50（図 25）

調査区南部のSD01下層で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は19.42 mである。長軸は約0.15 m、短軸は約0.14 m、深さは約0.08 mを測る。断面形状は逆台形である。

埋土は単層で、黒褐色中粒砂混じりシルトである。

遺物は出土していない。埋土の状況と遺構の切り合い関係から、古代以前と考えられる。

遺構外出土遺物（図 26）

重機掘削で土師器壺（62）、土師器鍋（把手）（63）、須恵器壺（64）、須恵器杯蓋（65）、須恵器杯B（66・67）、須恵器杯A（68～72）、瓦質土器鉢？（73）、精查で土師器杯（74）、石器RF（75）、第1面清掃で須恵器杯A（76）、包含層（第1面直上）から須恵器杯B（77）、包含層（第2面）から弥生土器壺（底部）（78）が出土した。

このほか図化できなかつたが、重機掘削で須恵器壺（79・80）、弥生土器片、弥生土器片？、土師器片、須恵器片、須恵器杯A、瓦質土器片、精査で弥生土器壺（V様式？）、弥生土器片、弥生土器片？、土師器片、須恵器片、黒色土器片、焼土塊、サヌカイト（2次加工ある）剥片、サヌカイト剥片、第1調査区壁面から弥生土器片？、第1面清掃で須恵器片、包含層（第1面）から弥生土器片、弥生土器片？、土師器片、須恵器杯B、須恵器片、焼土塊、サヌカイト剥片、包含層（第2面）から弥生土器片が出土した。

3) 1次調査

①は、平成29年12月7日に実施した試掘調査結果である。②は平成30年7月19日に実施した防火水槽設置箇所の発掘調査結果及び7月24日の工事立会部分である。

①— SD01（図 27）

①-2トレーンチで検出した東西方向の溝状の遺構である。調査区外に延びる。主軸方位N-77°-Wである。検出面は調査時地表面から約-0.20 mである。

長さ約1.00 m以上、幅約1.04 m、深さ約0.31 mを測る。断面形状は椀状である。

埋土は2層に分層でき、上層がにぶい黄橙細砂、下層が灰白細砂である。

遺物は出土していないため時期は不明である。

①— SP01（図 27）

①-2トレーンチで検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面の標高は不明である。長軸は約0.27 m、短軸は約0.25 m、深さは約0.35 mを測る。断面形状は筒状である。

埋土は3層に分層でき、柱痕が明黄褐シルト、掘方が灰黄褐シルトと褐灰シルトである。

遺物は出土していない。

②— SK01（図 28）

②で検出した土坑状の遺構である。検出した平面形状は隅丸方形である。主軸方位N-39.5°-E、検出面は調査時地表面から-0.746 mである。長辺は約0.75 m、短辺は約0.70 m、深さは約0.20 mを測る。断面形状は逆台形である。

埋土は単層で、黄灰シルト混じり細砂である。

遺物は図化できなかつたが多量の土器片が出土した。だがいずれも細片のため詳細な時期は不明である。

②— SD01（図 28）

②で検出した東西方向の溝状の遺構である。調査区外に延びる。主軸方位N-85.5°-Wである。検出面の標高は不明である。長さ約3.00 m以上、幅約0.50 m、深さ約0.03 mを測る。断面形状は不明である。

遺物は出土していないため時期は不明であるが、条里地割の方向に合致する。

②— SD02（図 28）

②で検出した南北に直行する溝状の遺構である。②-SD01に切られて調査区外に延びる。主軸方位N-10°-Eである。検出面は調査時地表面から-0.698 mである。長さ約15.00 m以上、幅約0.80 m、

川島郷遺跡

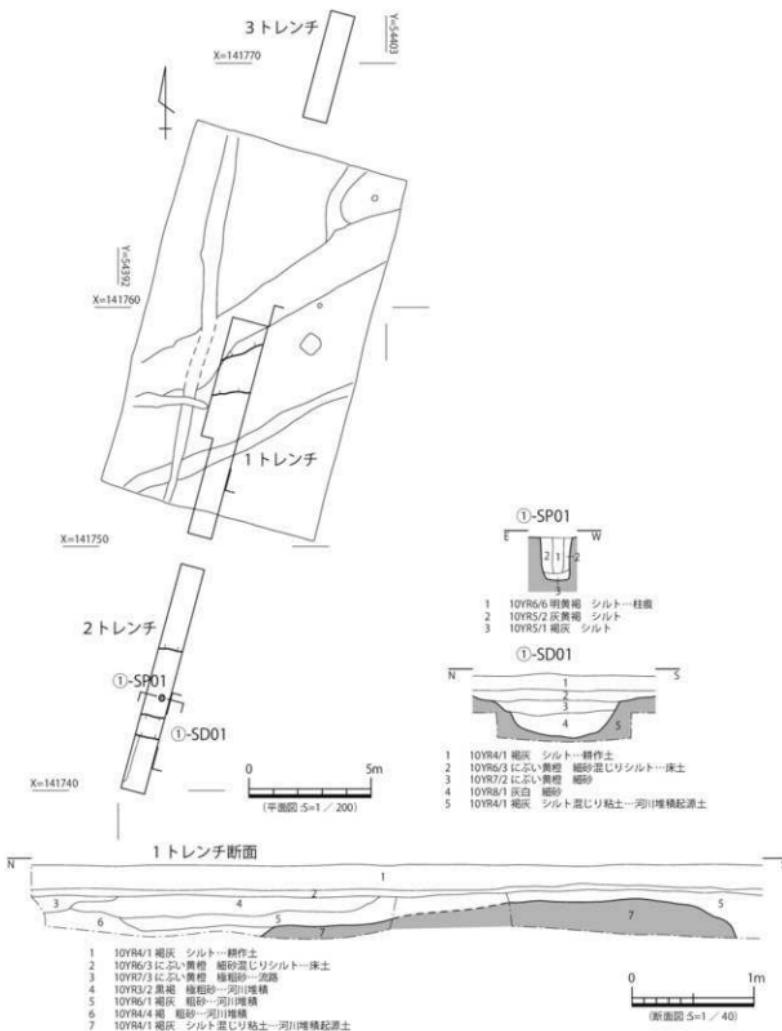


図 27 ①-SD01・SP01 平・断面図 ($S = 1/200 \cdot 1/40$)

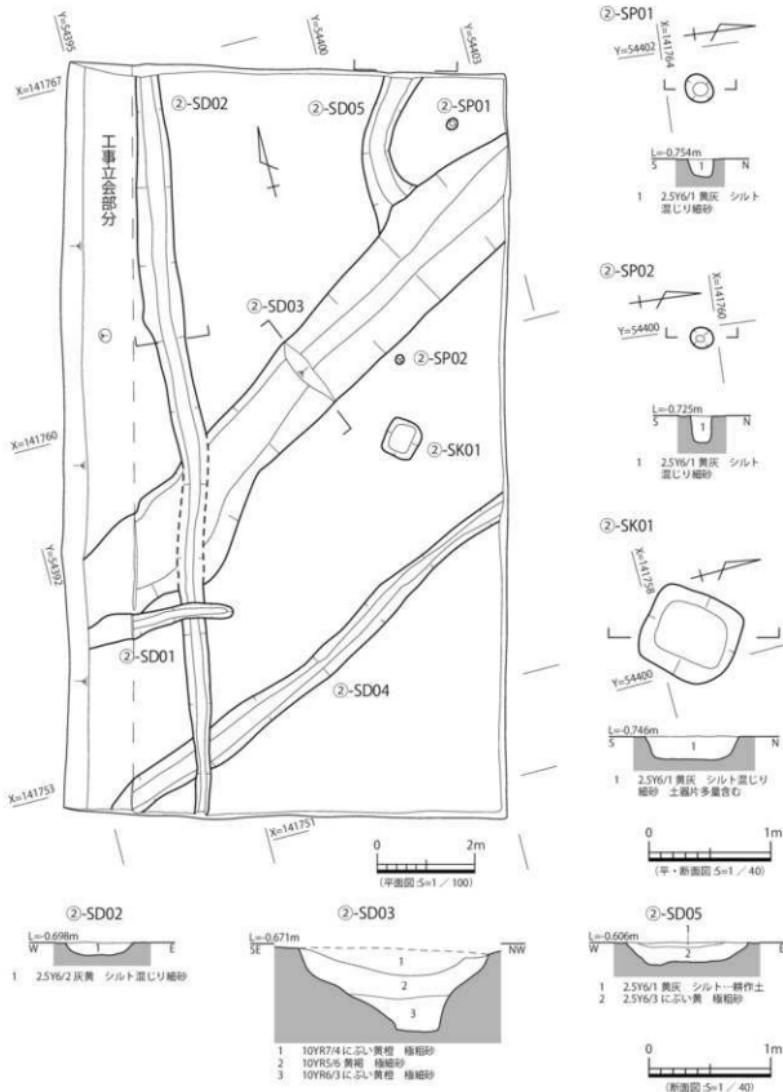


図 28 ②-SD01・02・03・04・05・SK01・SP01・02 平・断面図 (S= 1/100・1/40)

川島郷遺跡

深さ約 0.10 m を測る。断面形状は浅い皿状である。

埋土は単層で、灰黄シルト混じり細砂である。

少量の土器片が出土したが細片のため詳細な時期は不明であるが、条里地割の方向に合致する。

②- SD03 (図 28)

②で検出した南西から北東に直行する溝状の遺構である。②-SD02 に切られて調査区外に延びる。

主軸方位 N-59°-E である。検出面は調査時地表面から -0.671 m である。長さ約 12.00 m 以上、幅約 1.80 m、深さ約 0.70 m を測る。断面形状は V 字形である。

埋土は 3 層に分層でき、上層がにぶい黄橙極粗砂、中層が黄褐極細砂、下層がにぶい黄橙極細砂である。

遺物は出土していない。埋土の状況から、弥生時代と考えられる。

②- SD04 (図 28)

②で検出した南西から北東に直行する溝状の遺構である。②-SD02 に切られて調査区外に延びる。

主軸方位 N-66°-E である。検出面の標高は不明である。長さ約 10.00 m 以上、幅約 0.70 m、深さ約 0.07 m を測る。断面形状は不明である。

遺物は弥生土器が出土した。出土遺物と埋土の状況から、弥生時代と考えられる。

②- SD05 (図 28)

②で検出した溝状の遺構である。②-SD03 から派生して南東から北東に湾曲し、調査区外に延びる。

主軸方位 N-6°-W → N-39°-E である。検出面は調査時地表面から -0.606 m である。長さ約 3.00 m 以上、幅約 0.75 m、深さ約 0.18 m を測る。断面形状は逆台形である。

埋土は単層で、②-SD03 の 1 層と同じ洪水砂層のにぶい黄橙粗砂である。

遺物は出土していない。埋土の状況から、弥生時代と考えられる。

②- SP01 (図 28)

②で検出したピット状の遺構である。検出した

平面形状は円形である。検出面は調査時地表面から -0.754 m である。長軸は約 0.25 m、短軸は約 0.22 m、深さは約 0.14 m を測る。断面形状は筒状である。

埋土は単層で、黄灰シルト混じり細砂である。

遺物は出土していない。

②- SP02 (図 28)

②で検出したピット状の遺構である。検出した平面形状は円形である。検出面は調査時地表面から -0.725 m である。長軸は約 0.19 m、短軸は約 0.17 m、深さは約 0.20 m を測る。断面形状は方形である。

埋土は単層で、黄灰シルト混じり細砂である。

遺物は出土していない。

第IV章 自然科学分析

高松市川島郷遺跡 出土木製品の樹種調査結果

(株)吉田生物研究所

1. 試料

試料は高松市に所在する川島郷遺跡から出土した木製品 17 点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹 1 種、広葉樹 3 種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) マツ科モミ属 (*Abies* sp.)

（遺物 No.39.41.45）

（写真 No.39.41.45）

木口では仮道管を持ち、早材から晚材への移行は比較的ゆるやかで晚材部の幅は狭い。柾目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で 1 分野に 1 ～ 4 個ある。

板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ、モミ、シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

2) ブナ科コナラ属アカガシ亜属

（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）

（遺物 No.47.48）

（写真 No.47.48）

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（～ 200 μ m）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に 1 ～ 3 細胞幅の独立帶状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は單穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおむね平伏細胞か

なりり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

3) ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節

（*Sect. rinus udon* syn. *iversipilosae*, *Dentatae*）

（遺物 No.40.43.49 ～ 51）

（写真 No.40.43.49 ～ 51）

環孔材である。木口では大道管（～ 380 μ m）が年輪界にそって 1 ～ 3 列並んで孔圈部を形成している。孔圈外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは 2 ～ 3 個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は單穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

4) ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節

（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* Endlicher sect.

Cerris）

（遺物 No.35.37.38.42.44.46.52）

（写真 No.35.37.38.42.44.46.52）

環孔材である。木口では大道管（～ 430 μ m）が年輪界にそって 1 ～ 数列並んで孔圈部を形成している。孔圈外では急に大きさを減じ、厚壁で円形の小道管が単独に放射方向に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に幅の広い放射組織がある。柾目では道管は單穿孔と対列壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には柵状の壁孔が存在する。板目では

多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。クヌギ節はクヌギ、アベマキがあり、本州(岩手、山形以南)、四国、九州、琉球に分布する。

伊東隆大「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～V」京都大学木質

科学研究所(1999)

北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑本編Ⅰ・Ⅱ」保育社

(1979)

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木

器集成図録 近畿古代篇」(1985)

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木

器集成図録 近畿原始篇」(1993)

◆参考文献◆

林昭三「日本産木材顕微鏡写真集」京都大学木質科学研究所
(1991)

島地謙・伊東隆大「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版
(1988)

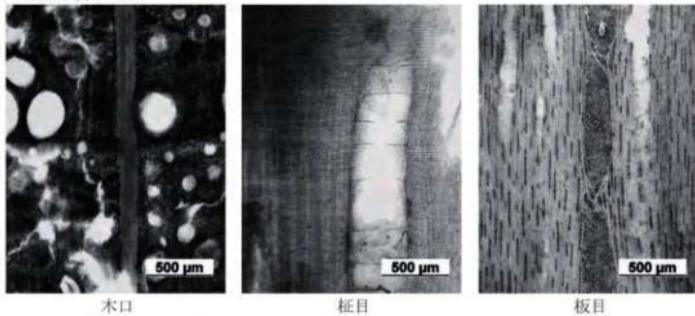
◆使用顕微鏡◆

Nikon DS-Fi1

表1 川島郷遺跡出土木製品同定表

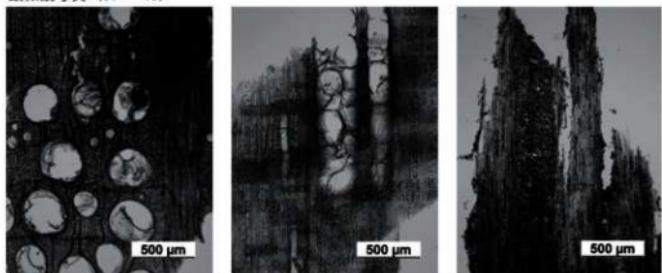
No.	品名	樹種
35	木器 杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
37	木器 はしご	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
38	木器 はしご	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
39	木器 杭	マツ科モミ属
40	木器 杭?	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
41	木器 杭	マツ科モミ属
42	木器 杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
43	木器 杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
44	木器 (板状)	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
45	木器 (棒状)	マツ科モミ属
46	木器 杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
47	木器 杭	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
48	木器 杭	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
49	木器 杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
50	木器 杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
51	木器 杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
52	木器 杭	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節

図版1 顕微鏡写真 (35)

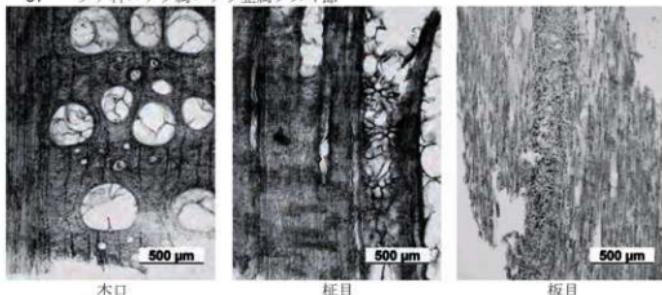


35 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節

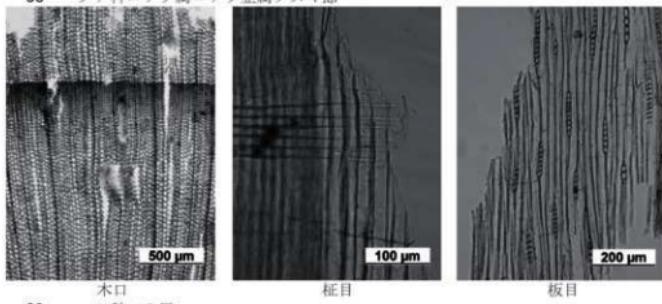
図版2 顯微鏡写真 (37~40)



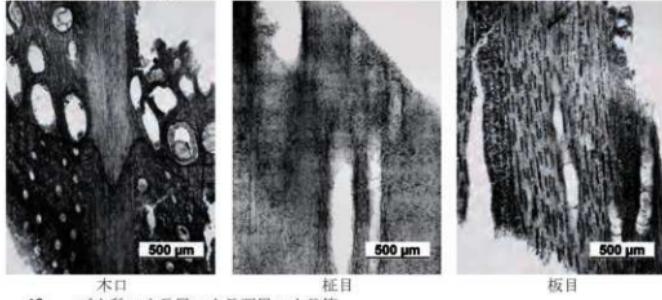
37 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
木口 横目 板目



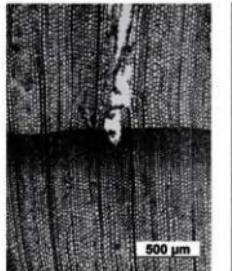
38 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節
木口 横目 板目



39 マツ科モミ属
木口 横目 板目



40 ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
木口 横目 板目



41
木口
マツ科モミ属



柾目



板目



42
木口
ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節



柾目



板目



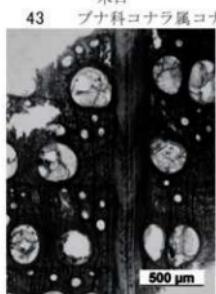
43
木口
ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節



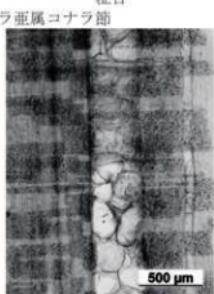
柾目



板目



44
木口
ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節

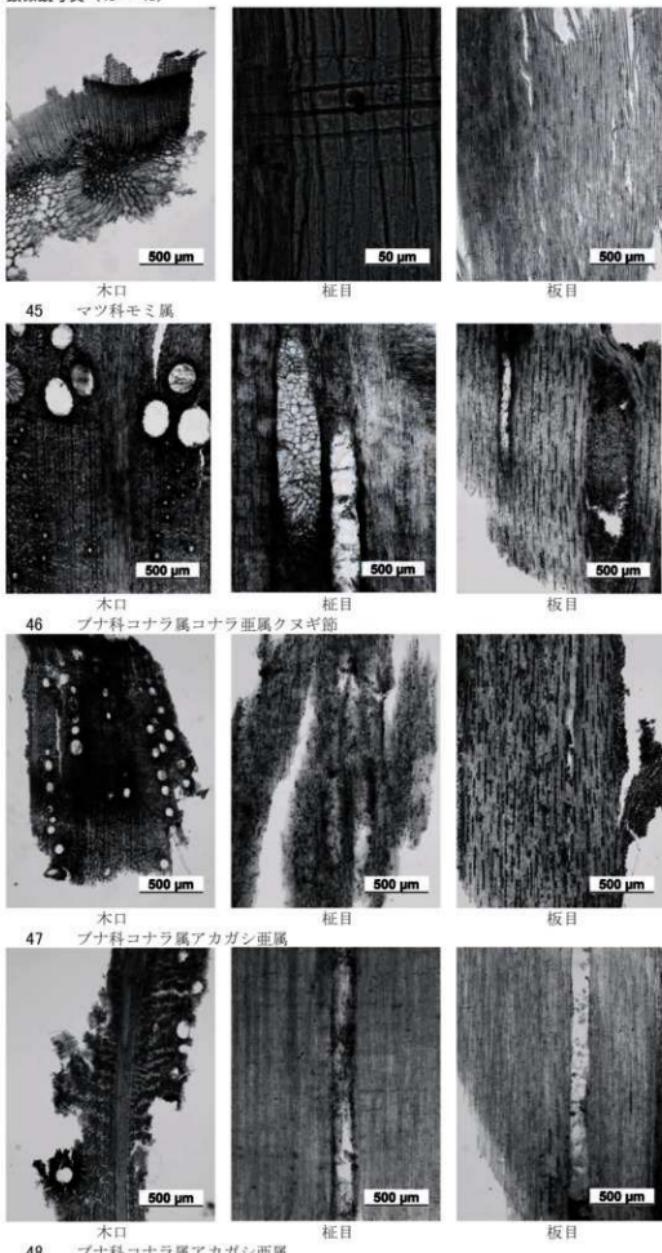


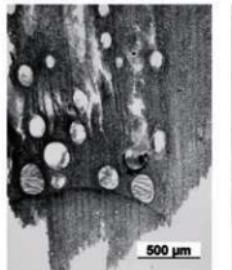
柾目



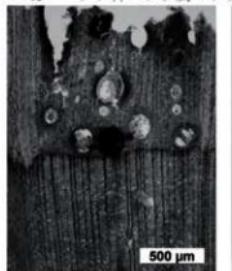
板目

図版4 顕微鏡写真 (45~48)





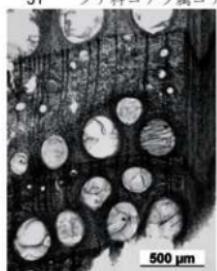
49 ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節



50 ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節



51 ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節



52 ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節